



CSR 2015

伊藤ハムグループ CSR報告書

詳細版

伊藤ハムグループCSR報告書 2015 詳細版

目次

報告にあたって	2	ガバナンス	
トップコミットメント	3	企業倫理規範	44
社是・経営方針と CSR	5	組織体制	45
活動ハイライト		コンプライアンス	46
お客様満足を目指して	7	リスクマネジメント	
食べる喜びを伝える	10	公正な取引	
日本ユニセフ栄養事業の		情報セキュリティ	
支援	13	コーポレートガバナンス	51
女性社員の活躍	16	ISO14001・ISO22000・	
環境保全活動	19	ISO9001 認証取得工場一覧	52
社会		環境	
お客様とともに	23	基本的な考え方	54
株主・投資家様とともに	28	環境負荷の全体像	55
社会貢献活動	30	環境目標	56
従業員とともに	36	環境マネジメント	59
		環境コミュニケーション	62
		環境負荷低減の取り組み	64
		環境会計	67
		環境データ	69
		環境保全活動の沿革	86

報告にあたって

編集方針

伊藤ハムでは2000年から「環境報告書」を発行し、今年で16回目の発行となります。2005年からは社会的側面の記述を充実させて「社会・環境報告書」として発行し、2008年から「企業の社会的責任」（Corporate Social Responsibility）に対する弊社の取り組みを皆様にご報告する内容に改めて、タイトルを「CSR報告書」としました。

今年度から、本報告書ではCSR活動のうち、ステークホルダーの皆さまにぜひご覧いただきたい特長ある取り組みに絞ってハイライトとして報告しています。CSR活動全般の取り組みは詳細版としてホームページで開示しています。

また、本報告書はホームページのみで開示しており、冊子の発行はしておりません。

■伊藤ハムホームページ <http://www.itoham.co.jp>

対象範囲など

報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは弊社およびグループの生産工場に限定している場合もあります。

報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動

対象期間

基本的には2014年度（2014年4月1日から2015年3月31日）の取り組みを報告していますが、一部では2014年度以前、以降についても報告しています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2012年度版）」

GRI「サステナビリティレポーティング ガイドライン2006」

※「環境」の事業所写真は、原則として伊藤ハム（株）のものを掲載しています。関連会社の事業所を掲載した場合は、注釈に当該社名および事業所名を記載しました。

トップコミットメント

「食」を担う企業として 社会から信頼され続けるために

代表取締役社長

堀尾 亨



はじめに

伊藤ハムグループは、創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」との社是を掲げ、皆様の健康にとって大切な動物性タンパク質である食肉や食肉加工品をお届けし、食生活の向上に貢献してまいりました。価値ある商品・サービスの提供を通して、「食べること」の喜びや楽しさを伝えていくことがグループの使命であると認識し、「食」を担う企業として皆様からいただいている信頼を盤石とするための活動を積極的に推進してまいります。

また、「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」ことを経営ビジョンと定め、伊藤ハムグループ中期経営計画(CNV2015)の達成に向け構造改革と成長戦略に全力で取り組んでおります。特に、「コンプライアンス体制のさらなる充実」と「人材の育成」については中期経営方針の重要事項の筆頭に掲げ、経営品質を高めるとともに、地球環境への配慮、社会貢献活動や食育活動などの分野においても、積極的に活動しております。

2013年10月には、創業の地である神戸市との間で包括連携協定を締結致しました。今後も引き続き、「自然環境保全」、「食育」、「防災」、「地域活性化」など幅広い分野で協力を進めてまいります。

コンプライアンスを推進する体制

伊藤ハムグループでは第三者を含む、取締役会の諮問機関である「CSR委員会」と、「コンプライアンス責任者会議」を頂点とする推進体制に加えて、「コンプライアンス委員制度」や「リーガルリスクマネジメントシステム」の運用などを通じ、社内の各階層に対して様々な施策・取り組みを実施、コンプライアンス意識の高揚と体制の強化を継続的に図っております。

「コンプライアンス委員制度」は、明日を担う若手社員の中からコンプライアンス委員を任命し、担当職域を定め職場に根付いたコンプライアンス活動を推進するものです。現在の委員数はグループ全体で約300名規模となり、職場のコンプライアンスチェックはもとより、コンプライアンス風土の醸成に向けた活動に取り組んでいます。

これらの取り組みを支える中核としてCSR本部があり、各部門・グループ各社と連携して体制の確保・制度の運営・施策の実行を進めております。従業員教育を通して伊藤ハムグループ全体のコンプライアンスマインドの浸透と徹底を図るため、毎年全従業員を対象とした教育プログラムを実施し、その効果をモニターすることもCSR本部の役割です。また、食品会社として最も重要なことは、おいしい製品を安心してお召し上がりいただくことで、品質管理徹底の重要性は言うまでもありません。各生産現場・流通段階における管理、検査、点検の徹底にグループを挙げて取り組む中、CSR本部が主体となる監査、点検も継続的かつ網羅的に行っています。

社会と共生する「社会貢献活動」「食育活動」

伊藤ハムグループは、事業活動を通じての社会との共生が大切と考え、社会貢献活動を推進しています。日本全国の事業所周辺の清掃活動には、毎年のべ2000人以上の従業員が参加するほか、「六甲山自然環境保全活動」を継続して支援する「こうべ森の学校」のほか「高尾の森づくりの会」の活動への参加を通じて間伐・植樹作業を実施するなど、自然環境保護活動も継続して実施しております。

また、開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの趣旨に賛同し、2008年より「タンザニア支援プロジェクト」による栄養事業支援活動を行ってまいりました。この取り組みは、弊社製品の販売数量に応じた寄付を行うもので、皆様のあたたかいご支援により、7年間の寄付金合計は1億円を超えました。今後もユニセフの活動を支援することで、より一層社会貢献活動を推進してまいります。

一方で、「食育活動」は食品企業だからこそできる社会貢献活動の一つであり、伊藤ハムグループのCSR活動の重要な一環として考えております。「伝えていきたい食べるよろこび」をメインメッセージとしてさまざまな食育活動に取り組んでおります。“食とeco”わくわく探検隊ではエコロジッククッキングを取り上げ、親子で参加をいただきました。また、継続した取り組みであるウイナーの飾り切り教室を2014年度は全国52か所で開催し、お弁当をもっと楽しくするお手伝いをさせていただきました。伊藤ハムブランドに込めたわれわれの想いを知っていただき、「食」への理解を深めていただく一助になると確信し、今後も継続して活動を行ってまいります。

環境負荷を低減するために

継続的な環境保全と自然との調和・共生、地球環境に配慮した事業活動を行うことは、伊藤ハムグループが企業の社会的責任を果たす基本姿勢と位置づけております。省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出量削減など、様々な環境負荷低減活動に積極的に取り組むとともに、全生産施設を対象として、中期環境目標を定め、達成に向け日々努力を重ねております。

2014年度も引き続き高効率タイプのボイラーや冷凍機への更新など施設に関わる取り組み、およびLED照明への切り替え、空調機を高効率タイプに更新するなど設備面での取り組みを行いました。今後も目標達成に向けて、様々な環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。

人材力を強化するために

従業員は会社の大切な財産です。人材の育成と働きやすい環境づくりは、企業の持続的発展を志向していく上での要として重要であります。教育制度の充実と言うまでもなく、労働安全衛生、健康管理、女性の活躍推進や、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティの推進などにも重点を置いた独自の取り組みを進めております。

社会から信頼され続けるために

伊藤ハムグループが真に社会から信頼され続けるために、多方面にわたる様々な課題にチャレンジし、全力で邁進いたします。

これらの活動につきましては、今後ともこの「CSR報告書」にて幅広く情報開示を行ってまいります。伊藤ハムグループの活動内容とその結果に対するステークホルダーの皆様のご理解と、皆様からの忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2015年9月

社是・経営方針とCSR

社是

事業を通じて社会に奉仕する

経営方針

企業理念

伊藤ハムグループは長期的な企業価値の向上を目指し、活力ある魅力的な企業、また、社会に貢献できる企業へ全社を挙げて取り組むことを基本方針としています。

- 1 使 命** (ミッション) 伊藤ハムグループは価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えてまいります。
- 2 経営姿勢**
 - コンプライアンス（企業倫理の遵守）を徹底し、透明性の高い経営を行うことで、社会から信頼される企業を目指してまいります。
 - お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けいたします。
 - 環境にやさしい企業活動を推進いたします。
 - 社員は会社の大切な財産です。能力主義・成果主義を重視し、何事にもチャレンジする活力ある職場を目指します。
- 3 行動規範**
 - あらゆる法令や会社の規則を遵守し、社会良識に沿って行動します。
 - 議論は自由闊達、且つ徹底的に行い、決めた事はすぐに実行し最後までやり遂げます。
 - 慣習にとらわれず、常に新しい発想で、自主的に行動します。
 - 「強く 正しく 速しく」の伝統精神のもと、自己責任原則を徹底します。

経営ビジョン

アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる

伊藤ハムグループは、企業規模や利益の追求だけを目的とせず、日本をはじめとしたアジア全体で、最も安全で安心な商品を提供している企業であるという信頼を得ることを目指します。

中期経営方針

- 1 コンプライアンス体制の更なる充実**
 - 引き続き体制の充実を図る。
 - 業務執行に対する監督機能の一層の強化。
 - 社外取締役の導入。
 - 社会貢献活動にも引き続き注力。
- 2 人材の育成**
 - ジョブローテーション／チャレンジ制度の構築。
 - 生産技術センターを設立し製造技術の伝承とレベルアップを図る。
- 3 営業力、生産力をはじめとする現場力の強化**
 - 価値を生み出す現場の力の充実・強化。
- 4 お客様目線での商品開発を伴うマーケティング力強化**
 - 新しい価値創造。
 - 商品開発／マーケティング部門への人材投入。
 - 業務用商品の開発力・マーケティング力強化。
- 5 コスト競争力の強化**
 - 経営資源をより効率的、効果的に使える強い筋肉質の企業体質へ。



お客様

お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けし、健全な生活の基盤となる食べることへの喜びや楽しさ、大切さをお伝えし、お客様に満足していただけるようなさまざまな取り組みを行います。

株主・投資家様

株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、さまざまな機会やホームページ、メディアを通じて、適時、適切な経営情報を開示し、良好な関係構築を図ります。

社会貢献

良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

従業員

従業員は会社の大切な財産です。その人格や個性を尊重しつつ、自己実現が達成できる仕組みづくりに努め、何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。

環境

環境関連法を遵守するとともに、地域環境の保全と社会の共生に努めます。省エネルギー、省資源、及び廃棄物の排出削減を図りリサイクルを推進するなど、環境保全活動によって、循環型社会の形成と地球環境負荷低減に貢献します。

ガバナンス

社会の一員であるという認識を強く持ち、あらゆる法令や社会的規範、社会的良識に基づいて企業活動を行い、企業としての社会的責任を果たすべく、ガバナンス体制を強化しています。



お客様満足を目指して

さまざまな声に耳を傾け、
伊藤ハムグループ全体で
改善に取り組んでいます



お客様相談室へお寄せいただいたご質問・ご意見を大切な資産として受け止め、真摯に耳を傾けるとともに、伊藤ハムグループ全体で共有することによって、商品・サービスの改善や、お客様にとって分かりやすい情報提供に活かしています。

お客様相談室には、日々、 お客様の多様な声が寄せられています

伊藤ハムグループに寄せられるお客様の声のうち、最も多いのは「商品に関するご質問」です。商品の特長、食べ方、調理法、商品の販売店に関することや商品の保存に関する、商品の栄養成分やアレルギー物質に関する事など他にもさまざまなご質問をお寄せいただいています。

伊藤ハムグループの商品に関心をお持ちになり、お問い合わせをいただいたお客様に、単なる商品の食べ方だけではなく、食事シーンに合わせたメニューのご提案など幅広くお答えすることを目指しています。



お客様相談室は
総勢5名のスタッフで
対応しています。



CSR本部
お客様相談室
木曾 義典

モットーは、お客様のお気持ちに沿って お話を聞くことです

お客様から、「問い合わせをしてよかった」と感じていただけるよう、お客様のお気持ちに添って話を聞くことをモットーにしています。また、商品の食べ方に関するご質問については当社商品をご利用いただくことで素敵な食事をお楽しみいただけるよう、お客様と当社商品の出会いをコーディネートできるよう心掛けています。

例えば、グランドアルトバイエルンの場合…



特定
JAS規格とは
何……？

皮は
何で出来て
いるの……？

開封後の
保存法……？

72時間熟成とは
何……？

CMに
出てる人は
誰……？

冷凍保存は
できるの……？

例えば、ラ・ピッツァシリーズの場合・・・



品質保証連絡会で お客様のご意見を共有しています

伊藤ハムグループは、商品の安全や品質の向上に関わる情報を関連部門間で共有し、速やかに改善を進めるために、各部門の品質管理責任者が一同に集う「品質保証連絡会」を定期的開催しています。

また、会議ではお客様から弊社へいただいた貴重なご意見についても情報を共有するとともに、改善策を話し合い、お客様のニーズを反映した商品開発やサービスの向上の実現に向け、真摯に取り組んでいます。



お客様から
いただいた貴重な声は
品質保証連絡会で
共有しています

2015年3月、品質保証連絡会で 伊藤ハムグループ品質方針を定めました

品質理念

私たち伊藤ハムグループは、すべての事業活動において「お客様第一」を念頭に品質管理に取り組み、お客様に美味しく、安全で安心な商品やサービスの提供をお約束します。このお約束を守るため、伊藤ハムグループでは右記の「品質方針」を定めて事業活動に取り組みます。

品質方針

- ① お客様の声に真摯に耳を傾け、お客様のニーズに沿った商品の開発やサービスの向上に努めます。
- ② お客様の立場になり、正確で分かりやすい情報提供を心がけます。
- ③ 調達、生産、物流、営業、販売に至るまで、より高い品質を追求し安全を確保する体制を構築します。
- ④ 伊藤ハムグループの一人ひとりが、お客様に安全で満足いただける品質を目指します。

安全・安心への取り組み

<http://www.itoham.co.jp/corporate/safety/>

安全でおいしい商品をつくるため各工程での品質管理や法令や運用規則が守られるよう客観的にチェックし、改善を支援する品質保証の取り組みについてホームページで詳しく説明しています。





食べる喜びを伝える

ウインナーの飾り切り教室など
親子で楽しめる食育活動
を行っています



「食べる」ということがおろそかになっている現代において、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさ、家族そろっての食事が語らいや団らんを育むことを伝えていきたい——。このような思いから、伊藤ハムは「ウインナーの飾り切り教室」をはじめ、親子で楽しめる食育イベントを全国で展開し、地域の皆様との絆を深めるとともに、食べる喜びを伝えるメッセージを発信し続けています。

「食」の大切さを伝える ウインナーの飾り切り教室を全国で開催

伊藤ハムは、食を扱う企業として「食べる」ことの喜びや楽しさ、家族そろっての食事の大切さをしっかりと伝えていくことが使命であると考えています。この思いを基本理念として、お子様から大人の方まで健全で楽しい食生活の大切さを認識していただくとともに、食肉加工品を活用した正しい食のライフスタイルをご提案することを狙いとして、「ウインナーの飾り切り教室」を全国各地で継続的に実施しています。2014年度は延べ52回開催し、約1,050名の方に飾り切りを楽しんでいただきました。

飾り切り教室の
開催回数
(2014年度)

52回

飾り切り教室の
参加者数
(2014年度)

約1,050名



教室で覚えた
飾り切りを自宅でも作って、
子どもを
喜ばせたいです。

孫や子どもをつなぐ
良い企画ですね。

先生やスタッフが
丁寧にアドバイス

最初は
包丁を触るのが
怖かったけど、
結構うまくできた!

子どもも、先生も、
手元を見つめる眼差しが真剣



難しいと
思っていたけど、
意外と簡単に
できました。

ウインナーの
豆知識や
お肉の話なども聞けて、
勉強になりました。

親子での会話が
弾む飾り切り



かわいい動物や
お花が作れて、
すごく楽しかった!

飾り切りしたウインナーは
ピザにのせておいしく試食





Facebook でもハム係長がレシピや新商品
などのお役立ち情報をお伝えしています

<https://www.facebook.com/itoham>



詳細な作り方は
ホームページ
「わくわく飾り切りランド」で
紹介しています。



▶ [わくわく飾り切りランド](#)



日本ユニセフ栄養事業の支援

タンザニア支援プロジェクトへの 累計寄付金合計が1億円を超えました



伊藤ハムは、社是である「事業を通じて社会に奉仕する」を実践するために、自然環境保護活動やボランティア活動をはじめとする社会貢献活動に注力してきました。このような活動の一環として、食に携わる企業としての社会的責任をより積極的に果たしていくため、2008年から「タンザニア支援プロジェクト」として、日本ユニセフ協会がタンザニア連合共和国ザンジバルで行う栄養事業を支援しています。

タンザニアの子どもたちを栄養不良から 守るユニセフの活動を継続的に支援

支援先をタンザニア連合共和国ザンジバルとした主な理由は、急性栄養不良の子どもたちが多く、貧困も深刻な課題となっていること、また、政情が安定しており、継続的な活動が見込めることの2点です。支援の方法は、対象期間に弊社対象商品の販売数量に応じその一部（2014年度は1パックにつき1.5円）を日本ユニセフ協会へ寄付するというもの。2008年からの7年間で累計寄付金合計は1億915万2,179円となりました。併せて、プロジェクトに携わる弊社のメンバーが2009年、2010年の2回現地を訪れ、支援の状況や課題を確認する作業も行っています。弊社は今後も、日本ユニセフ協会への支援をはじめ、社会貢献活動を推進していきます。



UNICEF/PEPG2014-1189/Hallahan



UNICEF/UNI161891/Holt

1 対象商品 をご購入

2014年度は
「ポークビッツ」、
「チーズイン」の
2つが対象商品。



2 日本ユニセフ協会への寄付

対象商品1パックにつき、
1.5円を日本ユニセフ協会に寄付します。

3 支援プロジェクトへの貢献

タンザニア連合共和国ザンジバルの5歳未満児
約20万人を急性栄養不良から守るための活動を
支援します。



We Support

unicef

伊藤ハム

伊藤ハムはユニセフを
支援します。

タンザニア連合共和国ザンジバルの5歳未満児

約 **200,000** 人を

急性栄養不良から守る、日本ユニセフ協会の活動を支援しています。



←ザンジバル



日本ユニセフ協会
から感謝状が
贈呈されました。



タンザニア
連合共和国

日本ユニセフ協会が行うタンザニア支援活動



自治体職員や保健施設のスタッフ、地域の保健ボランティアなど、スタッフを育成する。



スタッフが、子どもたちの発育観察を行い、栄養不良の子どもを早期に発見する。



栄養不良の子どもには栄養指導を行い、家庭ですぐに食べられる栄養補助食品を提供する。合併症などがあり、保健施設での治療が必要な子どもは施設を紹介する。



保健施設で治療用の粉ミルクや栄養補助食品を提供する。

タンザニア支援プロジェクト 伊藤ハムの活動のまとめ

- 2008年 創業80周年という節目を迎えたことを記念し、開発途上国で栄養不良にある子どもたちへの支援を開始。
- 2009年 タンザニアの保健省大臣との面談や地元英字紙新聞社、タンザニア購読者が多いスワヒリ語紙新聞社からの取材など現地からも大きく注目されました。
- 2010年 寄付金額が大幅に増加したことにより、支援対象者や対象保健施設を広げることが可能になり、対象地域をザンジバル島とペンバ島の150箇所まで拡大、支援を行う子どもたちも2万人から20万人へとプログラムを変更しました。
- 2014年 7年間の累計寄付金合計が1億円を超えました。



女性社員の活躍

女性がより活躍できる
職場づくりを進めています



伊藤ハムは、育児や介護など、社員それぞれの条件に関わらず、一人ひとりが生きがいを感じながら働くことができ、能力を十二分に発揮できる職場環境を実現するべく、多様な両立支援制度を設け、運用しています。さらに、女性がより重要な役割・責任を担うことが、企業競争力・企業価値の向上につながると考え、2018年度までに女性管理職を3.0%とすることを目指しています。日々、仕事と育児の両立に奮闘する女性社員たちに、ワーク・ライフ・バランスの状況や課題について語ってもらいました。



事業戦略統括部
家庭用企画部
第1プロダクト室

今村 佳代子

生活者の立場で
商品を企画したい



食肉事業本部
事業戦略部
販売支援室

石川 麻由美

「任せて良かった」と
思われるような仕事をしたい



生産本部
六甲工場
品質管理課

中川 早織

制度利用者の相談相手
になり、支えたい



管理本部
広報・IR部
広報室

米田 愛子

「忙しそうだけど
楽しそう」と言われたい

仕事時間が限られる中、工夫していることは？

- 今村** 育児などで仕事時間に制約があっても、成果を出すために心がけていることは、常に、一つ一つの業務に対してスピード感をもって取り組むことです。毎朝の通勤時に、まず1日の流れや進めたいことを考え、優先順位をつけて仕事に取りかかっています。
- 石川** 仕事の優先順位と期日をはっきりさせておくことは大事ですね。私は始業時に、その日に必ずやらなければいけないことをリストアップしておくようにしています。
- 米田** 私も朝に仕事のリストを作り、一日の仕事の流れをイメージするようにしています。想定外の業務が発生して、計画通りにいかないこともありますが、それでもリストを作ったほうが、仕事がはかどるように感じます。
- 中川** 1日の目標・ゴールを定めて、質の高い仕事をするのが大事ですね。
- 石川** 所属チームのメンバーとコミュニケーションをとって、協力を得ることも必要です。私は、上司とのやりとりを密にし、アドバイスをもらいながら、仕事を進めています。また、仕事の情報をできるだけチームのメンバーに共有しておき、突然の休みの際にも進めておくべきところは進めてもらえるよう環境を整えています。
- 中川** 子どもの急病などで休暇をとることもありますので、上司や同僚への報告・連絡・相談は不可欠です。
- 今村** 自分だけで結論が出せない業務は、担当者や上司に相談しながら進めるのもポイントだと思います。

伊藤ハムの「女性活躍推進」の取り組みへの評価は？

- 石川** 私の入社した10年以上前には、女性社員が結婚・出産して仕事を続ける例はほとんど見かけませんでしたが、ここ数年でとても多くなったと感じます。
- 今村** そうですね。ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進の取り組みが浸透してきたからでしょうか。
- 中川** 年々、各種の両立支援制度が整備され、利用しやすいものになってきました。その成果が、女性の育休後の復職率の向上につながっているのでは？
- 米田** 確かに、ワーク・ライフ・バランスの制度導入という点で、伊藤ハムはとても積極的に取り組んでいると思います。ただ、それらの制度の「利用」という面では、十分とは言えないのではないのでしょうか。
- 石川** そうですね。私の部署はとても働きやすいと感じていますが、一方で、部門によっては条件が合わずに辞めていく人、部署を異動する人もいます。どの部門でも、女性が継続して働いていけるようになればいいと思います。
- 中川** 伊藤ハム全体では、両立支援制度を利用している女性社員が増えていますが、男性中心の職場もまだ多いと感じます。
- 米田** 「育児や介護のためにどうしても必要だから」と肩身の狭い思いをしながら制度を利用するのではなく、仕事とプライベートのメリハリをつけるような、前向きなワーク・ライフ・バランスが進む会社風土になればいいと思います。
- 石川** それに加えて、ワーク・ライフ・バランスの議論では、女性の働きやすさに焦点があたることが多いのですが、子育て中の男性のワーク・ライフ・バランスについても、もっと推進が必要だと感じます。

いきいきと活躍するため、女性社員自身ができることは？

- 今村** 「女性だから」「子どもがいるから」と消極的になることなく、女性社員が意見を会社に伝えることが大事ですね。また、伊藤ハムの商品を購入するお客様には、女性の方が多いと思います。女性社員が、商品を購入する女性のお客様の視点に立って仕事をするすることで、お客様により喜んでいただくことができ、なおかつ女性社員も大きなやりがいを持って業務にあたることができるのではないのでしょうか。
- 中川** 確かに、今後もさまざまな分野で女性の視点や感性、発想が欠かせないと思います。また、女性がいきいきと活躍するためには、働きやすい職場づくりが不可欠です。今後、両立支援制度を利用したい女性社員がいれば、相談相手になるなどサポートしていく存在になりたいと思います。
- 石川** 制度を利用する分、ともに仕事をしている上司・同僚には負担がかかることも理解し、自分自身がより質の高い仕事をしていきたいです。女性社員が、自分が持つスキルを後輩達に伝え、チームとしてより良い仕事をしていくことが、女性がいきいきと活躍することにつながるのではないのでしょうか。
- 米田** これまで当社では、産休・育休の取得後に管理職になった女性社員はおらず、私がそのパイオニア的な存在になれたらいいなと思っていました。管理職となった今は、いつも努力を怠らないこと、笑顔を忘れないことを常に心がけて、仕事に携わっています。これから続く“ママさん社員”にとって、管理職がハードルの高いものでなく、ごく普通の選択肢の一つになればいいですね。また、当社で女性社員がさらにいきいきと活躍するために、自分たち自身ができることについて、もっと多くの女性社員と意見交換がしたいです。



伊藤ハムグループのさらなる飛躍には、女性の活躍が不可欠です

伊藤ハムグループのさらなる飛躍を支えるのは人材力です。貴重な人材である女性の活躍が不可欠だと考えます。これからも、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進の取り組みを継続し、育児や介護を始めとする家庭責任などそれぞれが持つ条件に関わらず、女性社員がいきいきと働き、能力を発揮できる会社を目指します。

育児と仕事の両立支援制度

制度	内容
産前産後休暇	出産予定日8週間～産後8週間
育児休業	子どもが満1歳になるまで ただし、認可保育所に入ることができない等の場合は、満2歳まで取得可能
育児短時間勤務制度	小学校3年生修了までの間で、育児休業期間と通算して72か月間まで
家族ケア休暇	中学校就学前の子の看護等のために、年10日を付与
ジョブリターン制度	結婚、出産、育児、配偶者転勤の理由により退職した女性社員の再入社制度



環境保全活動

伊藤ハムデリー小樽工場 CO₂排出量削減の取り組み



小樽工場では、CO₂排出量を削減するために、2011年よりボイラーの燃料を重油から天然ガスへ転換する計画を定め進めてきましたが、ボイラーの更新時期に合わせて、2014年10月15日、天然ガス焼きボイラーへの切り替えを完了しました。今後も地域のエネルギー特性を踏まえながら、地球環境への負荷低減に努めます。

伊藤ハムグループ「北海道唯一」の ハム・ソーセージ生産工場

石狩湾新港地域に立地する小樽工場は、伊藤ハムグループにおける、北海道唯一のハム・ソーセージの生産拠点として位置づけられています。2015年4月現在、141名の従業員が在籍し、一般的なハム・ソーセージのほか、生ハム、ドライソーセージ、サラミなどを製造するとともに、北海道産の原料を使ったオリジナル商品も生産しています。

生産品目



グランドアルトバイエルン、PRIMEあらびきグルメ
ポークウインナー、小樽ロマン味紀行ローズ生ハム、
吟生サラミなど



小樽工場

〒061-327

北海道小樽市銭函5丁目61-3

社会貢献活動の一環としてクリーンアップ活動にも積極的に参加

石狩市等が主催する「石狩湾新港地域春季クリーン作戦」や「クリーンアップ石狩新港浜」に、毎年、多くの小樽工場および伊藤ハムデリー北海道地区従業員（その家族含む）が参加しています。また、小樽工場では工場周辺のごみ拾いも実施しています。

ごみのない美しい海辺の保護、清潔で快適な環境維持、地域社会との共生を目指して、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。



燃料転換、ボイラーを更新し CO₂排出量削減

2014年10月15日、ボイラーの燃料を重油から天然ガスに転換するとともに、重油焚きボイラーから天然ガス焚きボイラーに切り替え、CO₂排出量が2014年10月から2015年3月までの6ヶ月間で、前年比約24.7%減の183t-CO₂を削減することができました(月間約30t-CO₂減)。

天然ガスCO₂排出係数：0.0136（重油の約0.72倍）
重油のCO₂排出係数：0.0189



コージェネレーションも新たに設置

主として夏場のデマンド超過対策及び停電時の事務所の電灯コンセントの受電バックアップとして、コージェネレーションを設置しました。熱回収し、温水供給設備としての役割も果たしており、省エネルギー効果も期待できます。



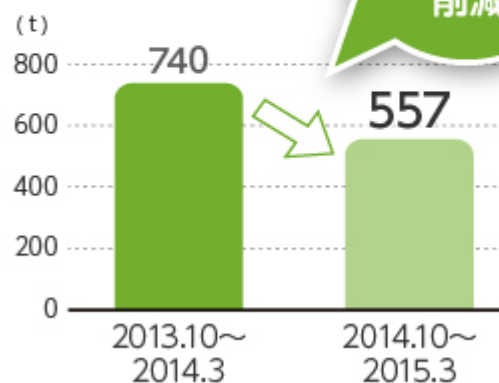


「もったいない活動」に 従業員全員が取り組んでいます

小樽工場では、日々のISO14001活動として、すべての従業員が「もったいない活動」※に取り組み、省エネルギーや廃棄物の削減を積極的に進めています。また、ハード面では「天然ガス焚き高効率ボイラー」を導入し、CO₂排出量を削減するとともに、さらなる環境負荷低減を図るために、省エネ型の冷凍機やスクリーンプレッサーへの切り替えを検討しているところです。

ボイラーに係る CO₂排出量前年比較

CO₂排出量
24.7%
削減



※「もったいない活動」：電気・用水の使用量や動植物性残さ・廃棄物の発生量を日々掲示板に貼り出し、その進捗状況を「見える化」、従業員の「もったいない意識」を啓発する活動



石狩スマートエネルギーコミュニティ構想への参加

石狩スマートエネルギーコミュニティ構想は、石狩湾新港地域の省エネと産業の活性化などを目的として、地域の特性である多彩なエネルギーを活用しながら、分散型エネルギーインフラの整備を進めるものです。小樽工場は、この構想の事業目的である「域内エネルギーの需給バランスの最適化に伴う環境負荷の小さい災害に強い大規模工業団地の形成」に賛同し、最適なインフラ整備の実現を目指して、この構想に参加しています。



伊藤ハムデイリー小樽工場には、地域の 中核企業としての活躍を期待しています

石狩スマートエネルギーコミュニティ構想の核となるエネルギーインフラは、石狩湾新港地域の天然ガスパイプラインと企業集積を活用したガスコージェネレーションです。今後は、2014年度までのエネルギー需要検証データを活用し、供給事業体の構築に向け、営業活動を進めたいと考えています。伊藤ハムデイリー小樽工場には、地域の中核企業として、幅広い事業活動の展開と、地域活性化への貢献を期待しています。

(社会)

お客様とともに



お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けします。健全な生活の基盤となる食ることへの喜びや楽しさ・大切さをお伝えし、お客様に満足していただけるような、さまざまな取り組みを行っています。

▼ 安全・安心への取り組み

▼ お客様とのコミュニケーション

安全・安心への取り組み

中国やタイなど海外でも、安全な食肉・食肉加工品を提供しています

「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」というグループの経営ビジョンのもと、中国、タイで事業を展開しています。

中国では、食肉および加工食品に対する需要が急速に拡大する中、安全・安心な商品の安定供給が大きな課題となっています。このような課題に対応するべく、当社、三菱商事（株）、米久（株）の3社は、投資会社MIY（株）による出資を通じて、中国最大の食料関連国有企業である中糧集团有限公司（COFCO）が展開する、豚・鶏等の家畜生産と食肉処理・加工・販売、ならびに食肉輸入事業に参画しています。

タイにおいては、当社、タイ ベタグロ社、タイ味の素社が2009年、合併会社（イトウハム・ベタグロ・フーズ社）を設立し、食肉加工品を製造するとともに、日本やタイ、カンボジア、ラオスへの販売・輸出事業を展開しています。



中国のスーパーの店頭および中国で販売されている商品



タイのスーパーの店頭およびタイで販売されている商品

ISO22000の運用により、食品安全を推進

伊藤ハムグループの食肉加工施設および食肉加工品生産施設では、ISO22000（食品安全マネジメントシステム）を運用することで、食品安全に取り組んでいます。ISO22000は、品質管理の国際規格であるISO9001をベースとして、工程管理にHACCP（総合衛生管理製造過程）を取り入れた食品安全に特化した国際規格です。

伊藤ハムグループでは、2005年12月にグループ会社であるサンキョーミート（株）有明ミート工場が、食肉業界で初となるISO22000を認証取得しました。以降、IHミートパッカー（株）、IHミートソリューション（株）、（株）藤栄、沖縄フレッシュパック（株）が認証を取得し、2008年までに食肉事業本部の全生産事業所が認証取得を完了しました。

さらに、ハム・ソーセージの生産工場では、グループ会社である筑紫ファクトリー（株）北九州工場が2009年にISO22000の認証を取得しました。



ISO22000適合証明書

新制度への対応を進めながら、より分かりやすい表示方法を追求

食品表示は、お客様にとって非常に重要な情報です。伊藤ハムグループでは、生産・販売している各食品について関係法規を遵守し、お客様にできるだけ分かりやすく表示するよう取り組んでいます。

近年、食品表示の偽装が社会問題となり、商品の誤認表示を規制する景品表示法の改正が進められたことから、弊社は同法に準じて食品表示方法の整備・運用を推進してきました。

例えばCSR本部品質保証部は、生産部門、調達部門、マーケティング部門、営業部門などの関連部門とともに、定期的に「表示・デザイン会議」を開催し、法令遵守はもちろん、お客様の視点に配慮した社内表示基準を策定し、全社規程として運用しています。加えて、表示に関する勉強会を開催し、従業員の知識向上を図ってきました。

2015年度は、4月に施行された食品表示基準に対応する社内表示基準を策定する計画です。このような新制度においても、より分かりやすい表示方法を追求し、お客様の立場に立った表示の実現を目指します。

安全・安心な商品をお届けするために、監査・点検を実施しています

CSR本部品質保証部では、お客様に安全・安心な商品を提供するために、伊藤ハムグループの各施設が適正に運用されているかなどについて、定期的、臨時的な監査・点検を実施しています。

特に、ハム・ソーセージなどの食肉製品の主力生産工場については、監査員が常駐し、厚生労働省承認のHACCP（総合衛生管理製造過程）の基準で、適正に運用、生産されているかなどについて、各工場の品質管理部門と連携して監査・点検を実施しています。

また、伊藤ハムグループの各営業所・物流・販売店舗の監査、および社外協力工場についても、新規取引開始時の工場審査、取引開始後の定期監査などを実施し、各商品の品質・安全性を確認、検証しています。

異物混入を防ぎ、食品の安全性を確保する対策を実施

2014年、食品業界では異物混入事件が大きな社会問題となったことを受け、伊藤ハムグループは、お客様が安心して商品をご利用いただくことができるよう、意図的な異物の混入から食品を保護する「フードディフェンス」の対策を強化しました。

例えば、ハード面においては「伊藤ハムグループ フードディフェンス方針」に基づき、生産施設にカメラを増設するなどの対策を実施し、外部からの不審者侵入の抑制や監視を行っています。加えてソフト面においては、従業員とのコミュニケーションを重視することで職場環境を活性化し、異物混入をはじめとする不祥事を未然に防げるような企業風土づくりを推進してきました。

伊藤ハムグループは、今後もフードディフェンスの強化に努め、安全で品質の良い商品を作り続けることができるよう、全社一丸となり真摯に取り組んでいきます。

お客様とのコミュニケーション

「もっとおいしくコミュニティ」を通じてお客様の声を商品づくりに生かしています

「もっとおいしくコミュニティ」は、伊藤ハムが企画・運営するモニター組織です。「お客様の視点からの自由な発想によるご意見」によって弊社商品をより良いものにすることを目的として、2004年11月からスタートしました。登録メンバーは、30代～60代のご自身が調理を行う主婦層が中心です。登録メンバーの皆様からのご紹介によって、少しずつメンバー数を拡大しており、2015年6月現在、562名の方が登録されています。（※現在も口コミ紹介という形で新規会員を募集しています。）

メンバーの皆様にはグループインタビューやアンケート調査に参加いただき、商品に対するご意見や生活意識について伺うことで、弊社商品の開発や改良、マーケティング施策のヒントにさせていただいています。2014年度には、「旨包ハンバーグ」の味覚およびパッケージに対するご意見を伺い、パッケージの改良や新商品企画の参考とした事例をはじめ、東京12名・関西12名の合計24名のモニターを対象に合計7回のグループインタビューを開催しました。併せて、Web上で年4回のアンケートを実施しました。

今後は、店頭で商品を購入していただいた上で、使い勝手やご家族の反応などをお伺いするような取り組みも実施していきたいと考えています。

「もっとおいしくコミュニティ」モニターの声

- 伊藤ハムの商品に対する姿勢に、まじめで誠実なものを感じました。
- 自分の意見を率直に言うことができて良かったです。
- 他のモニターの方から、料理に関する考え方などいろいろな話を伺うことができ、勉強になりました。

お客様相談室へのお問い合わせに対して、誠意ある対応を迅速に行っています

伊藤ハムグループお客様相談室では、フリーダイヤル、ホームページ、お手紙などを通じて、お客様からお問い合わせ・ご意見をいただいています。2014年度には、主として「食べ方・調理方法」、「保存方法」、「キャンペーン内容」について、総数約11,200件のお問い合わせ・ご意見をいただきました。

特にお問い合わせについては、電話で内容を詳しく伺い、誠意ある対応を迅速に行うことを心がけています。また、ご指摘いただいた内容は関係部署と情報を共有し、問題点の抽出・改善に努めています。

- ▶ 活動ハイライト お客様満足を目指して「さまざまな声に耳を傾け、伊藤ハムグループ全体で改善に取り組んでいます」はこちら

■ お客様の声伝達経路



Facebookの公式サイトで、お客様との共感を育むコミュニケーションを展開 ～ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の活用～

伊藤ハムは、「ザ・グランドアルトバイエルン」や「伝承」ギフトなどお客様から広くご支持いただいておりますが、原料価格の高騰やデフレの継続など大変厳しい市場環境が続いています。このような状況の中で、お客様に伊藤ハムをより身近に感じていただき、さらに店頭で「伊藤ハムブランド」を第一に想起していただくために共感を育むコミュニケーションを図る必要がありました。

その施策として、より多くのお客様に伊藤ハムのファンになっていただくとともに、企業ブランド価値向上を図る目的で、2011年よりソーシャル・ネットワーキング・サービスのFacebookに公式サイトを開設しました。

面持ちが哀愁漂うキャラクター「ハム係長」を通して、お客様との親密なコミュニケーションを図り、現在約13万人のファンの方々に共感いただいています。

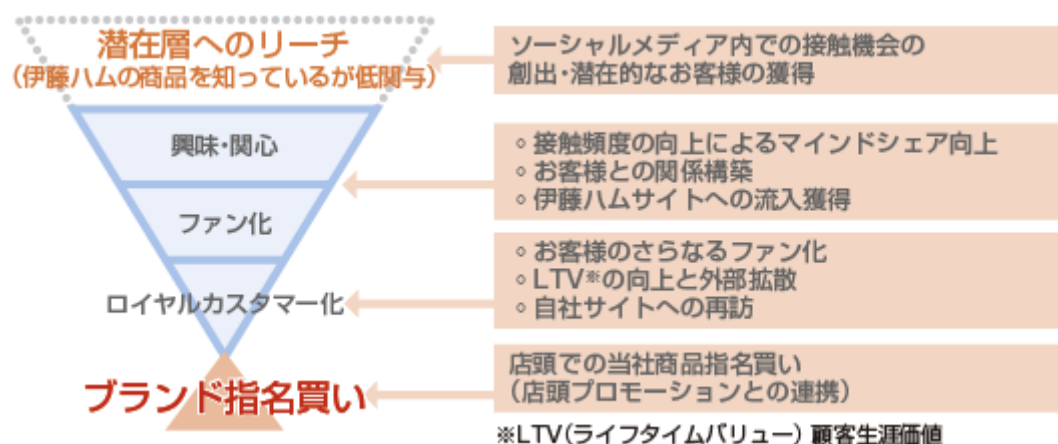
今後も時節にあったレシピの紹介やハム係長のキャラクター特性を生かしたコメントも交えるなどお客様一人ひとりの心に寄り添う真摯な対応と、温かいコミュニケーションを心掛けていきます。



■ ソーシャルメディア展開の概要



■ ソーシャルメディアマーケティング施策の目的



■ ソーシャルメディアの取り組み経緯

2011年	
4月	● Facebookに公式サイトを開設
6月	● NHK「あさイチ」に出演
7月	● Facebookの「いいね！」数が1万人を突破
8月	● Twitterを使ったアルトバイエルンキャンペーンを実施
2012年	
1月	● ハム係長の部下キャラクター「アサノフレミ」がFacebookに公式サイトを開設 ● NHK「さきドリフ」に出演
5月	● 初のレシピ本『ハム係長のとっておきレシピ』を発刊
9月	● Facebookの「いいね！」数が3万人を突破
2013年	
4月	● Facebookの「いいね！」数が5万人を突破
7月	● NHK「クローズアップ現代」に出演
9月	● 映画「鷹の爪GO～美しきエリエール消臭プラス～」に出演 ● フジテレビ系列「とくダネ！」に出演
11月	● NHK「めざせ！会社の星」に出演
2014年	
3月	● Facebookの「いいね！」数が7万人を突破
2015年	
1月	● Facebookの「いいね！」数が10万人を突破

お客様の声

- ハム係長の大ファンでアプリも入れています。伊藤ハムのイメージが身近に感じられるようになりました。
- お弁当作りで悩んだ時、まず見るのが伊藤ハムのFacebookです。簡単に見ることができて重宝しています。
- ハム係長を知ったのがきっかけになって、伊藤ハムの商品にも興味がわき、買ったり、探したりするようになりました。

(社会)

株主・投資家様とともに



株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、長期的な企業価値の向上を目指し、経営情報を開示します。

- ▼ 企業情報開示・IR活動
- ▼ 開かれた株主総会を目指して
- ▼ PICK UP：株主優待制度

企業情報開示・IR活動

ホームページによる情報開示

ホームページで、適時適正な情報開示に努めています。

- ▶ 「伊藤ハム」ホームページ
- ▶ 「株主・投資家の皆様へ」ホームページ



株主様向け報告書の発行

株主様向けの報告書を年に2回発行し、財務情報などをタイムリーにお伝えしています。

決算説明会

決算および第2四半期決算発表後、アナリスト・機関投資家様などを対象に決算説明会を開催しています。説明会資料については、ホームページにも掲載しています。

開かれた株主総会を目指して

近年、企業を取り巻く社会情勢がめまぐるしく変化している中、株主総会は経営方針を決定する場としてその重要性が高まっています。

伊藤ハムでは最高意思決定機関である株主総会を、株主の皆様と、直接意見を交換できる貴重な場と位置づけ、開かれた株主総会を目指しています。その一環として、招集ご通知の役員選任候補者の顔写真の掲載、「見やすく読み間違えにくい」ユニバーサルデザインフォントの採用といった取り組みを実施しています。

また、株主総会においては、事業報告と計算書類などの報告では、ナレーションと映像を用いてご説明し、株主の皆様に、よりご理解していただけるよう努めています。

なお、2015年6月25日(木) 午前10時より第75回定時株主総会を神戸ポートピアホテル(神戸市)にて開催し、全決議事項が承認可決されました。出席者数は862名(前年は954名)、所要時間は1時間36分(前年は1時間37分)でした。

質疑応答においては、「女性の積極的登用」、「ROEの目標値」、「消費者ニーズをくみ取った商品開発」など、のべ10名の株主様から27項目にわたるご質問と貴重なご意見をいただきました。



株主総会

PICKUP

株主優待制度

伊藤ハムでは、株主の皆様に感謝の意を表すとともに、当社の製品をより身近に感じていただくことを目的として、毎年3月31日現在で1,000株以上ご所有の株主の皆様に対し、年1回(時期6月)、5,000円相当の当社製品を贈呈いたしました。



平成27年6月送付の当社製品贈呈例

(社会)

社会貢献活動



伊藤ハムグループの社是のもと、良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にし、社会貢献活動を持続的に推進します。

社会貢献活動方針

- ▼ 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。
- ▼ 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。
- ▼ ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します。
- ▼ 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
- ▼ 従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を支援します。

「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います

「食育」に関する基本理念

2005年に「食育基本法」が公布されてから「食」への関心が高まり、企業や学校、地域でさまざまな取り組みが行われています。

伊藤ハムグループでは2007年1月、「食育に関する基本理念」を制定。「食」に携わる企業として、食べることの喜びや楽しさ、大切さを伝える活動を積極的に展開しています。

食育活動理念

伊藤ハムグループは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族そろっての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えていきます。

メインメッセージ

伝えていきたい食べる喜び

食育活動方針

- 安全・安心で良質なたんぱく質を提供します
- 正しい食習慣をサポートします
- 貴重な食資源を大切にします
- 楽しい食文化を発信します

コーポレートメッセージ

あふれる笑顔

お客様の「あふれる笑顔」を実現させるために、食育活動を推進してまいります



PICKUP

子どもたちの「食」への興味を高める さまざまな食育イベントを実施

子どもたちの「食」に対する興味・関心を高めるとともに、地域社会とのコミュニケーションを深めることを目的に、「ウインナーの飾り切り教室」や「手作りウインナー教室」など数々の食育イベントを行っています。2014年度は、「ウインナーの飾り切り教室」に約1,050名の方が参加したのをはじめ、伊藤ハム主催の食育イベントに総勢約1,140名の方に参加いただきました。

また、2014年度は食育フェアなどのイベントにも合計4回出展し、約1,380名の方に「ウインナーの飾り切り実演」や「食育グッズ抽選会」などを楽しんでいただきました。



食育グッズ抽選会

ウインナーの飾り切り教室

ウインナーを使って、「ウサギ」や「ひまわり」などを作る飾り切りを楽しんでいただきます。お子様から大人の方まで、食べる喜びや大切さを知っていただきたいという思いから、全国各地で活動が続けています。



参加者の声

飾り切りウインナーを食卓に並べて、食わず嫌いが多いわが子にも食事をおいしく楽しんでもらいたいです。

手作りウインナー教室

毎年、西宮工場にて「手作りウインナー教室」を開催しています。親子で仲良くウインナーを作って試食し、工場でウインナーの製造工程を見学していただくなど、ご家族で「食」の体験を楽しんでいただいています。



参加者の声

ウインナーの手作りは初めての体験でした。親子で楽しく、充実した時間を過ごせました。

豚肉のカッティングデモ・料理教室

豚肉のカッティングの実演と、親子で料理にチャレンジすることを通じて、命をいただくことの大切さや食べる楽しさ、お肉の効用や食事バランスなど、「食」について学んでいただきます。



保護者様の声

スライスしたお肉しか見たことがなく、大切な命を頂いて生きているということを実感しました。

お子様の声

お肉を切るのが楽しかった。また参加したいです。

ピザ工場を学ぼう

クリスマスにあわせ、神戸工場では地域住民のご家族が参加する「ピザ工場を学ぼう」を開催しました。ラ・ピッツァシリーズのおいしさの秘密を知っていただき、実際にピザを手作りしてそのおいしさを体験いただきます。



参加者の声

生地をこねるところから、本格的なピザ作りに初めて挑戦することができ、子供たちにとって、良い経験となりました。

- ▶ 活動ハイライト 食べる喜びを伝える「ウインナーの飾り切り教室など親子で楽しめる食育活動を行っています」[はこちら](#)

地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます

“食とeco”わくわく探検隊

食べ物と環境のかかわり、自然環境と生命の大切さを伝えることを目的に、地球環境にやさしい炊事や自然観察を体験していただくイベントを実施しています。地元で採れた旬の食材を使って、省エネで地球環境にやさしい料理を作るプログラムなどを実施し、2014年5月には19家族62名、同年10月には15家族45名の参加がありました。



エコロジッククッキングの調理の様子



たい肥を活用してひまわりを栽培「サンサンひまわりプラン」サンキョーミート

サンキョーミートは、社会貢献活動の一環として、牛や豚から発生するたい肥を有効利用、たい肥を敷いた土地に、鹿児島県志布志市の市の花である「ひまわり」を植え、収穫した種から「ひまわり油」をつくる「サンサンひまわりプラン」に参画しています。

2014年度は新入社員（17名）が主体となって、種まきを実施、従業員同士がチームワークを高め、親睦を深める良い機会となりました。



ひまわりの種まきの様子



ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します

タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るユニセフの活動を継続的に支援

伊藤ハムは、タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るためのユニセフの活動をサポートする「タンザニア支援プロジェクト」を2008年から継続して実施しています。このプロジェクトは、当社対象商品の売り上げの一部を寄付することで、ユニセフがタンザニアで展開する栄養支援プログラムを援助するものです。

お客様のプロジェクトへのご賛同に加えて、グループ会社を含めた約250カ所の事業所から従業員募金を集め、2014年度には1,309万7,160円をユニセフへ寄付しました。2008年度から2014年度までの寄付総額は1億915万2,179円となり、日本ユニセフ協会から感謝状を贈呈されました。寄付は全額、ユニセフがタンザニア連合共和国ザンジバル島とペンバ島で展開する「タンザニア栄養支援プログラム」に充てられています。具体的には医療スタッフの育成、栄養補助食品の提供に活用され、プログラムの成果拡大に貢献しています。



上腕周囲測定テープで赤ちゃんの栄養状態をチェック



治療用ミルクや栄養改善の食料

- ▶ 活動ハイライト 日本ユニセフ栄養事業の支援「タンザニア支援プロジェクトへの累計寄付金合計が1億円を超えました」は[こちら](#)

「こうべ森の学校」に活動資金を提供し、従業員ボランティアが参加

神戸市は、2002年に緑化100周年を迎えた六甲山系において、これからの100年の森林保全と育成を目指した「六甲山これからの百年の森づくり」を進めています。その一環として、六甲山系の再度山（ふたたびさん）を拠点に、市民・行政・企業が協働して森林保全活動を行う「こうべ森の学校」を、伊藤ハムは支援しています。

「こうべ森の学校」では、市民が植樹や間伐をはじめとする森林の手入れを行うほか、間伐材など森の恵みを利用したログハウスづくり、木工品の制作などの活動も展開しています。伊藤ハムは、自然環境保護活動の一環として活動資金を提供し、従業員ボランティアを派遣しています。また、参加者には毎回当社製品をプレゼントしています。

2013年10月8日、伊藤ハムは神戸市と包括連携協定を結び、「こうべ森の学校」を引き続き10年間支援することを約束しました。当社は「こうべ森の学校」をこれからも継続して支援し、森林保護活動を積極的に実施します。皆様もぜひ活動にご参加ください。

「こうべ森の学校」

- ・活動日： 定例活動日は奇数月の第二土曜日、偶数月の第三日曜日
ウィークデー森の手入れは毎週火・木・土
ウィークデー木工教室は毎月第二火曜日
- ・活動時間： いずれも10:30～15:00
- ・連絡先： 神戸市建設局 公園砂防部 森林整備事務所
- ・電話番号： 078-371-5937
- ・こうべ森の学校のWebサイト：http://kobe-mori.jp/morigaku_hp/
もしくは「こうべ森の学校」で検索！



「こうべ森の学校」



森の手入れ作業の様子



苗木の育成作業の様子

従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を支援します

社会貢献推進期間

毎年9月～10月を『伊藤ハム社会貢献推進期間』と定め、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした活動を各地区で実施しています。

社会貢献表彰制度

顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。

ボランティア休暇制度

ボランティア活動に参加する場合、取得できる「ボランティア休暇制度」を設けています。

ボランティア体験イベント

ボランティア意識向上と、社会貢献活動への参加を促すために、「ボランティア体験イベント」を開催しています。

従業員ボランティアによるイベントを開催

従業員ボランティアが運営する社会貢献イベントを各地で開催しています。

社員の声 ボランティア参加者

「こうべ森の学校」に参加して、大きなやりがいを感じています

2カ月に1回、「こうべ森の学校」に参加しています。森林の手入れの活動は、森づくりが着実に進んでいることがわかり、やりがいも大きいです。自然の大きさを体感しての活動は気持ちをリフレッシュする効果も！ ご興味のある方はぜひ参加してください。

伊藤ハムシステムサービス株式会社 開発3課
福田 浩之



(社会)

従業員とともに



従業員は、会社の大切な財産です。教育制度の充実はもちろん安全衛生、健康管理に配慮し、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティへの取り組みも行っています。何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。

- ▼ ワーク・ライフ・バランス
- ▼ 教育制度の充実
- ▼ 労働安全衛生
- ▼ 健康管理
- ▼ ダイバーシティの尊重

ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランス推進委員会を設置

伊藤ハムグループは、育児や介護など、従業員それぞれの状況に関わらず、一人ひとりが生きがいを感じながら働くことができ、能力を存分に発揮できる職場環境を目指して、その実現に向け取り組んでいます。2013年度に設置した「ワーク・ライフ・バランス推進委員会」では、「メリハリのある働き方の実現」「女性の活躍をサポート・促進する体制の構築」を重点課題として定め、取り組み計画を策定しました。

さらに2014年度から、各地区・各社で任命されたワーク・ライフ・バランス推進担当者が育児や介護の相談窓口として役割を果たしているほか、取り組み計画に基づくさまざまな施策の浸透や利用促進に取り組んでいます。

これらの取り組みが評価され、2014年10月、ひょうご仕事と生活センターから「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」に認定されました。

※ ひょうご仕事と生活センターは、「仕事と生活のバランス」の取り組みを全県的に推進する拠点として、兵庫県、連合兵庫、兵庫県経営者協会と協働のもと、平成21年に設置されました。



ひょうご仕事と生活の調和推進企業認定証を授与される松崎人事総務部部長（右）

メリハリのある働き方の実現を目指して

2014年度、メリハリのある働き方ができる職場環境を醸成するため、業務改善とその成果としての総実労働時間の削減について、部署単位で目標を立てることとし、各部署がその達成に向け取り組みました。また、事前残業申請制度の導入、管理職の労働時間管理の強化、「ノー残業デー」の設定など、所定外労働時間の削減に努めているほか、計画的年次有給休暇制度などにより、有給休暇の取得を推進しています。

女性リーダー層の育成

当社グループのさらなる飛躍を支えるのは人材力であり、貴重な人材である女性の活躍が不可欠です。女性がより重要な役割・責任を担い、将来的に経営や事業の意思決定に参画することが、企業競争力・企業価値の向上につながると考え、2018年度までに女性管理職を3.0%にすることを目指しています。

この目標の達成に向け、女性従業員の積極採用、女性従業員を対象とした研修、仕事と育児・介護等の両立支援、就業継続支援制度(ジョブリターン制度など)によって、女性リーダー層の育成に取り組んでいます。



女性リーダーエンカレッジ研修

仕事と育児・介護との両立支援

仕事と育児・介護を担う従業員が、職場において能力を存分に発揮できるよう、「育児休業者職場復帰支援プログラム(ハムママコミュニティ)」「短時間勤務制度」「時差勤務制度」など、さまざまな両立支援制度を整備しています。

各地区・各社に任命したワーク・ライフ・バランス推進担当者がこれら制度の浸透・利用促進に取り組んでいるほか、「仕事と育児の両立ハンドブック」「仕事と介護の両立ハンドブック」を作成し、社内イントラネットで閲覧できるようにしています。

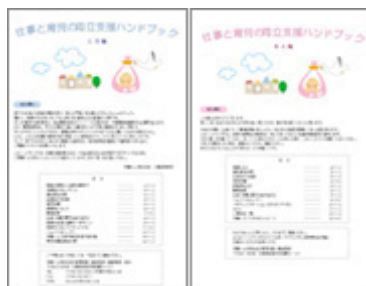
さらに2015年度は、「第六次次世代育成支援行動計画」に基づき、多様な働き方の実現を目指す検討チームを発足し、在宅勤務制度の導入や、短時間勤務制度の見直しに向けて活動しています。



ハムママコミュニティ

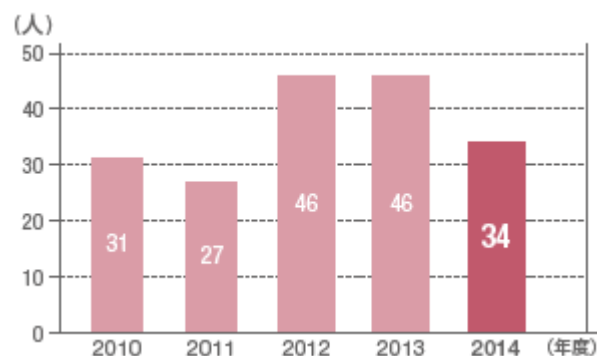


次世代認定マーク
「くるみん」



仕事と育児の両立支援ハンドブック

■ 育児休業者数



社員の声 両立支援制度利用者

柔軟な制度を活用して、楽しく働くことができます

子どもが1歳の時点で保育園に入ることができず、悩みましたが、弊社ではそのような場合に2歳まで育児休業を取得でき、とてもありがたく感じました。また、復帰後も、モチベーションが上がり、スキルアップできるような環境で仕事ができおり、以前よりも一層、働くことの楽しさや大切さを日々感じられています。今後は品質管理のエキスパートとなり、管理職を目指していきたいです。

加工食品事業本部 生産本部 技術部 品質管理2課

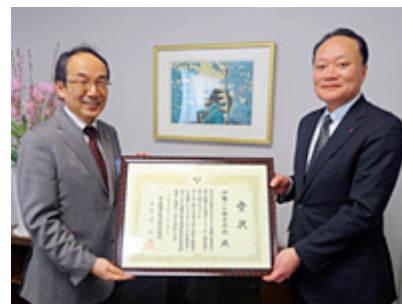
石上 笑理



教育制度の充実

「キャリア支援企業表彰 2014」において「中央職業能力開発協会会長奨励賞」を受賞しました

厚生労働省ならびに中央職業能力開発協会が主催する「キャリア支援企業表彰」とは、従業員のキャリア支援の重要性を深く認識し、人を育て、人が育つことに重点を置いた取り組み、成果を上げている企業等を表彰し、その理念や取り組み内容を広く啓発、普及していくことを目的としています。伊藤ハムは教育・研修をはじめとした人材育成プログラムや異動制度なども含めたキャリア支援各施策の効果的な運用が評価され、2015年3月5日、「中央職業能力開発協会会長奨励賞」を受賞しました。



賞状を授与される松崎人事総務部部長（右）

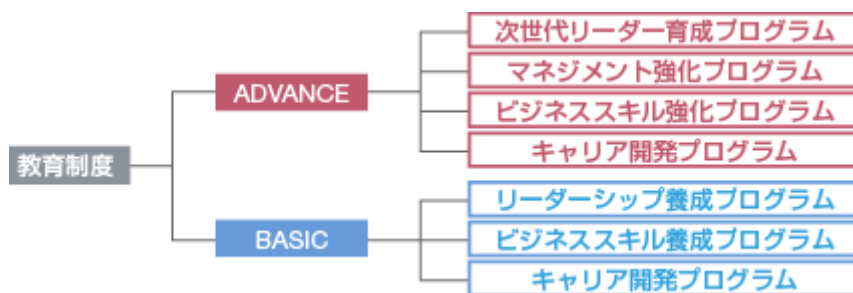
一人ひとりの成長と組織の発展のために、2つの教育コースを用意

伊藤ハムグループは、従業員一人ひとりの成長と組織の発展を実現することを狙いとして、教育制度において大きく2つのコースを用意しています。具体的には、全従業員を対象とし、ビジネスに必要な基本的なスキルの習得とキャリア開発を目的とした「BASICコース」と、人や組織のマネジメントに求められるスキルの習得とその強化を目的とした「ADVANCEコース」を設けています。

教育プログラムとしては、「BASICコース」において「リーダーシップ養成プログラム」「ビジネススキル養成プログラム」「キャリア開発プログラム」を、また「ADVANCEコース」には、「次世代リーダー育成プログラム」「マネジメント強化プログラム」「ビジネススキル強化プログラム」「キャリア開発プログラム」を設けています。なお、高い成長意欲を持つ従業員に対し積極的に学習の場を提供するため、教育研修の中には応募型で受講者を募るプログラムも用意しています。2014年度において、のべ825人がこれらの教育プログラムを受講しました。

また、伊藤ハムグループでは、資格の取得に積極的に取り組む従業員を支援するため、TOEICを含む66の資格を取得した者へ奨励金を支給する制度も設けており、2014年度には95名が奨励金を受給しました。

■ 教育制度の体系



■教育プログラム

ADVANCE	2 級	主任	主 事	管理職
次世代リーダー育成プログラム			ビジネスリーダー研修	マネジメントリーダー研修
マネジメント強化プログラム			マネジメントスキル研修	
			新任役職者研修	
				新任管理職研修
ビジネススキル強化プログラム		課題解決力強化講座・部門実践講座		
キャリア開発プログラム			女性リーダーエンカレッジ研修	

BASIC	2 級	主任	主 事	管理職
リーダーシップ養成プログラム	リーダーシップ養成研修			
ビジネススキル養成プログラム	論理的思考・課題設定力講座・課題解決力講座			
	コミュニケーションスキルアップ講座			
	部門スキルアップ講座			
	自己啓発支援制度(ビジネススクール／通信教育)・資格取得支援制度			
キャリア開発プログラム	3年目フォロー研修	主任キャリアチャレンジ研修	主事昇格時研修	
	↑ 2年目フォロー研修			
	↑ 新入社員フォロー研修			
	↑ 新入社員入社時導入研修			
		女性キャリアデザイン研修		レビュー者研修
	ミドルエイジキャリア支援研修			

ジョブチャレンジ制度の導入などで、人材の活躍の場を拡大

中長期的な視点に立ち、従業員自身が目標やキャリアビジョンを立てて上司と面談するキャリア面談や、同一部署での長期滞留による弊害を排除すべくジョブローテーションを実施しています。また、やる気のある人材の活用を促進するために、「社内フリーエージェント※1」「社内公募※2」などのジョブチャレンジ制度を導入・強化し、人材の活躍の場を広げています。

2014年度には、「社内フリーエージェント」に5名の応募があり、うち2名の成立に至りました。「社内公募」については7案件に対して17名の応募があり、6名を採用しました。

※1 基準となる資格をクリアした従業員が、異動を希望する部門へ自分のキャリアを売込む制度

※2 新規事業や欠員補充などの人員配置のための募集を社内で募集する制度

■ 新入社員を計画的・重点的・継続的に育成する、メンター制度

伊藤ハムは、新入社員・若手社員の能力を迅速に向上させ、早期かつ着実に即戦力へと育成するために、メンター制度を2012年から導入しています。この制度は、新入社員1名に対して1名以上のメンターを任命し、メンターは育成のプロデューサーとなって、新入社員を計画的・重点的・継続的に育成・指導するものです。

このような制度の運用によって、現在、2年目社員からベテランまで新人育成の機会を得ています。今後も、先輩が後輩を育成するサイクルが職場に定着することを目指して、伊藤ハムグループの継続的な発展に寄与する、人材育成の揺るぎない基盤を築いていきます。

社員の声 教育担当者

2015年度は、中堅社員のリーダーとしての役割を発揮するための「主事昇格時研修」や、ミドル社員のキャリア開発など、新たな研修も加えスタートしています。

社内研修では、社員がそれぞれの持ち場で求められる役割を発揮するための必要な能力開発をはじめ、事業部門で必要となるスキル習得のための研修も実施しています。

自らが学び成長しつづけ、また人の成長を支援・促進できる社員がひとりでも多く増えることが「現場力強化」につながっていくと考えており、その“気づき”を与える場として、効果的な研修実施を目指しています。また、社内研修だけではなく、メンター制度のように、制度を通して人を育てる喜びを実感するなど、職場風土の醸成に直結する制度や、社員のモチベーションアップ施策にも今後積極的に取り組んでいきたいと考えています。

管理本部人事総務部
人材開発室

田原 直子



労働安全衛生

■ 労働安全衛生方針

伊藤ハムグループは、すべての人が安全に安心して働ける職場環境を実現するため、労働安全衛生管理に取り組んでいます。

■ 労働安全衛生方針

1. 企業倫理規範に基づき、労働安全衛生の関係法令、社内規程・ルールを遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
2. 労働安全衛生方針を周知し、従業員の協力の下、自主的な労働安全衛生活動の促進とPDCAによる継続的・継続的な職場の労働安全衛生管理の水準の向上に努めます。
3. リスクアセスメントにより職場に存在する危険有害要因の把握・評価を行い、リスクレベルに基づいたリスクの除去低減策を講じて、労働災害と健康障害の未然防止に努めます。
4. 従業員が労働安全衛生の高い意識を有して、労働安全衛生を優先した作業が行えるように、繰り返し労働安全衛生教育を行い、不安全行動やミスの撲滅に努めます。
5. 伊藤ハムグループの心の健康づくり計画に基づき、メンタルヘルス不調者への対応とともに職場のコミュニケーションの活性化による心の健康づくりに努めます。

6. 構内協力会社との連携、情報交換を充分に行い、構内協力会社と一体となった総合的な労働安全衛生管理の構築に努めます。

安全衛生教育

新入社員の入社時集合研修では、安全に仕事をするための基本を身につけるために、「安全衛生の基本」の講義を行っています。

また、生産工場などでは、作業手順教育や労働災害同種災害防止教育など、安全衛生教育を繰り返し実施し、不安全行動の撲滅、従業員の安全衛生意識向上に努めています。

安全衛生監査

「労働安全衛生関係法令、社内ルールの遵守徹底」と、「労働災害や職業性疾病の発生防止」を目的として、CSR本部が年度の安全衛生監査計画に基づき、主要事業場の監査を実施し、遵法の指導と危険要因の改善に取り組んでいます。

健康管理

健康情報

お客様に信頼していただける仕事をするために心身の健康は必要不可欠なものです。

伊藤ハム健康保険組合では、人間ドック、がん検診の受診費用補助や禁煙サポート、ウォーキングイベントなどの疾病予防や体育奨励事業を推進するとともに、広報誌「きらり」やホームページを活用して、従業員とその家族に向けて健康情報を発信しています。

メンタルヘルス

伊藤ハムグループ「心の健康づくり計画」に基づき、各人事労務担当部署からメンタルヘルス推進担当者を選任し、組織化することで、メンタルヘルス推進体制を確立・整備しています。また、「医療法人あけぼの会メンタルヘルスセンター」との提携によるEAP(従業員とその家族を対象とした従業員支援プログラム)の導入を進めています。不調者への対応だけでなく、職場のコミュニケーションの活性化や生産性の向上にも取り組んでいます。このような一連の取り組みによって、各地区・各部門と連携の下、問題の予防と対策の強化を図っています。

2014年10月24日には、関西福祉科学大学EAP研究所が主催する「こころの健康と経営戦略」フォーラムに企業の好事例として、当社人事総務部 人事課長 井田から当社の取り組みを紹介しました。



メンタルヘルスのポスター

メンタルヘルスセンターの声

いきいきと働ける職場づくりのために

2014年度は、管理監督者と一般の従業員に向けて講習を実施し、職場環境改善をはじめ、部下への対応の仕方、自分と相手を大切にする表現技法「アサーション」などのコミュニケーションスキルについてもお伝えしました。

伊藤ハムは、メンタルヘルス啓発活動と人材の多様性の尊重が推進され、従業員がいきいきと働ける職場づくりに取り組んでいる点が素晴らしいと思います。今後も、活気のある職場づくりを目指してください。

医療法人あけぼの会 メンタルヘルスセンター

小牟禮(こむれ) 尚子



ダイバーシティの尊重

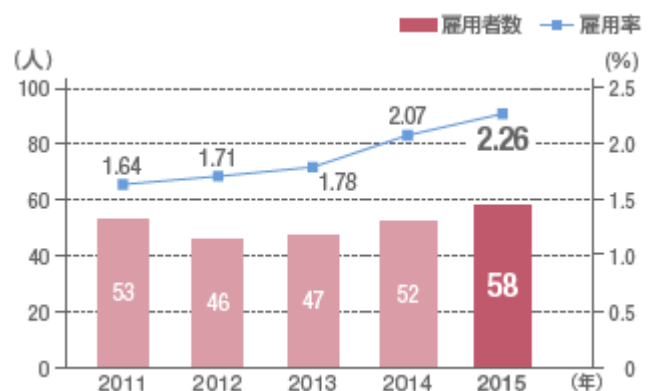
適用業務の拡大などによって、障がい者雇用率を向上

伊藤ハムの障がい者雇用率は2015年6月現在、2.26%です。1993年に当時の法定雇用率（1.6%）を上回って以来、雇用率を維持し、「兵庫県障害者雇用促進協会会長賞」「兵庫県知事賞」「日本障害者雇用促進協会会長賞」を受賞しました。近年は事務系派遣の直接雇用化やグループ会社再編などの影響から、一時的に法定雇用率を下回ることもありましたが、就労支援センターや支援学校、職業安定所などのご協力のもと、職場見学会を開催し、求職者を確保するとともに、適応業務の拡大を図ることで、雇用率の向上を果たしました。

併せて、弊社は障がい者が安心して働ける職場づくりを推進しており、支援ワーカーやジョブコーチと連携して、障がい者の職場への定着を図っています。2015年1月28日には、阪神南県民センター、兵庫労働局、ハローワーク共催の「阪神地域障がい者就労支援大会」シンポジウムに参加し、弊社の取り組みを紹介しました。

今後も障がい者雇用率の維持・向上を目指して、障がい者にとって働きやすい職場づくりに努めます。

■ 障がい者雇用実績



シンポジウムでの講演の様子

定年退職者の約9割を再雇用

定年退職後も働く意志があり、引き続き勤労者として社会に貢献したいと考えている従業員が積極的に働くことは、会社や社会にとっても大きなメリットという認識のもと、2006年に従来の「定年再雇用制度」を拡充。以来、正社員・非正社員ともに、定年を迎える1年前に本人の意志を確認して、最長65歳まで再雇用を継続しています。再雇用期間は1年ごとの契約とし、継続就業の意志確認は毎年行っています。勤務形態は従業員の希望をできるだけ汲み取り、勤務時間など柔軟に対応しています。

2014年度は、伊藤ハムでは定年退職者の約89.5%にあたる77名を、グループ全体では定年退職者の約86.7%にあたる183名を再雇用しました。

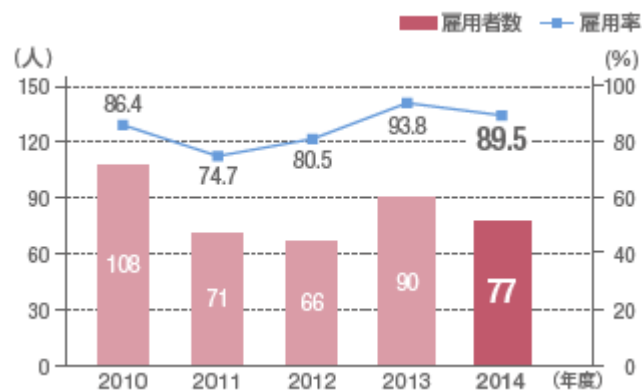
伊藤ハムではこの制度のほかに、60歳以上の人材の新規採用を進めるなど、少子高齢化の進展に対応した雇用を進めています。今後は、再雇用者のモチベーション向上を促す施策などを検討していきます。

非正社員の中から優秀な人材を選び、正社員へ登用

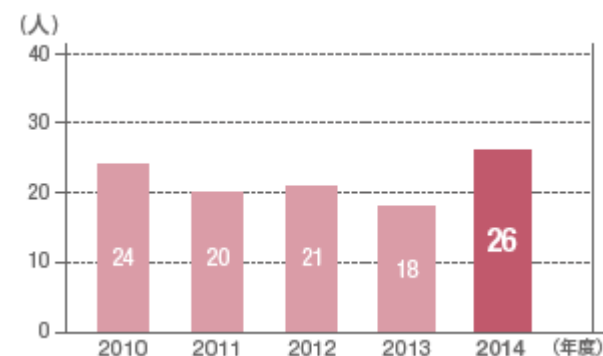
伊藤ハムグループは、非正社員の戦力化とモチベーションの維持向上を図るべく、パートタイム労働法の改正に合わせて2009年度から、非正社員を正社員に登用する「正社員登用制度」を運用しています。この制度は、一定の評価基準を満たし、所属部門の推薦を受けた非正社員を対象に面談・試験を行い、正社員として登用処遇するものです。

さらに、非正社員における資格についても期待役割に応じ、時間給のパートナー社員を月給のエリア社員へ登用するなど正社員登用制度に限らず、優秀でやる気のある従業員の登用制度も運用しており、今後も従業員のモチベーション施策を進めていきたいと考えています。

■ 定年退職者再雇用実績



■ 正社員登用者数推移



ガバナンス



企業としての社会的責任を十分に果たし、ステークホルダーの皆様からの信頼を得るために、内部統制機能を充実させた経営組織体制を整備し、的確な経営の意思決定とスピーディーな業務執行を行っております。コンプライアンス意識を向上させる研修・教育の徹底と、積極的な情報開示を通して経営の透明性を高め、総合的なコーポレートガバナンスの充実に努めてまいります。

企業倫理規範(コンプライアンスの原則)

健全で誠実な企業経営を行う上で守るべき考え方を「企業理念規範（コンプライアンスの原則）」として策定しています。

1. 公正な活動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

伊藤ハムグループは、常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

伊藤ハムグループは、事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンス等を通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対応

伊藤ハムグループは、業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。

ガバナンス



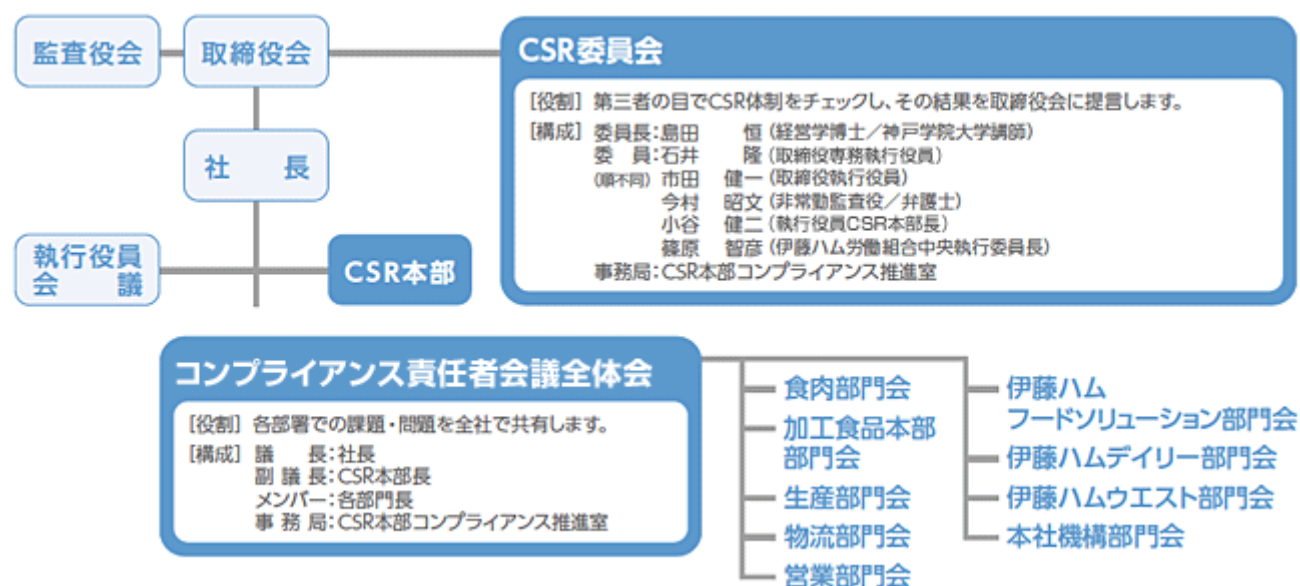
組織体制

伊藤ハムグループでは、社外有識者を含む諮問機関である「CSR委員会」と、伊藤ハム社長を議長として各事業部門の長をメンバーとする「コンプライアンス責任者会議」を頂点とするコンプライアンス推進体制を敷いております。更に、各事業部門にも「コンプライアンス責任者会議(部門会)」を設置、グループ全体で方針を推し進める継続的な活動・取り組みを行っています。

こうした活動・取り組みの中核としてCSR本部があります。CSR本部の目的は、伊藤ハムグループの役員をはじめ全従業員のコンプライアンスへの意識を向上させ、実践の企業風土を十分に浸透させるとともに、モニタリングの体制を強化・拡充することです。上記会議体の運営母体となる他、内部監査、研修・教育を担当し、各部門・グループ各社とも連携してコンプライアンスを推進しています。

また、CSR本部長は、社長を代行してコンプライアンス違反行為への是正を命ずる権限を持つとともに、モニタリング活動を通じて「問題点を早期に発見し、社長・取締役会に報告すること」、「現場への改善を指示をすること」、「是正プロセスと結果を確認し、社長・取締役会に報告すること」について責任を負っています。

■ CSR推進組織図



ガバナンス



コンプライアンス

2009年に発足した委員制度は今期で7年目を迎え、今期はグループ全体で278名が任命されています（2015年5月現在）。コンプライアンス委員の役割は職場長と協力して、職場のコンプライアンス推進と定着を図ることです。そのためには、委員自身にコンプライアンスの意識の向上と知識の習得が必要であることから、職場のリスクのリストアップ・傾聴トレーニング・食品表示等を題材としたミーティングを、年に3回実施しています。

報告期間中に実施した定期ミーティングについて

開催頻度：年3回

（1回ごとの内訳は全国約15か所、延べ20回）

目的：委員の意識と知識向上のため

開催実績：約60回

主な議題：傾聴トレーニング、職場のリスクのリストアップ

PICKUP

職場に根づいたコンプライアンス活動を推進

各事業部門から、伊藤ハムグループの次代を担う従業員を選り、**「コンプライアンス全体会」**で278名のコンプライアンス委員を任命しています（2015年5月現在）。コンプライアンス委員は職場長の補佐をしながら、コンプライアンスの周知活動、職場での相談受付や、法令遵守・企業倫理の遵守のモニタリングを行っています。また、年に3回定期ミーティングを行い、委員のスキルアップと委員同士の情報交換を行っています。



コンプライアンス委員ミーティング

社員の声 コンプライアンス委員スタッフ

コンプライアンスの醸成を目指して委員を全力で支援していきます

コンプライアンス委員の役割は「職場のコンプライアンス推進と定着」で、日常業務でのコンプライアンス違反や関係法令違反、社内ルール違反がないかをチェックし、早期に対応することです。そのため、ミーティングでは自分たちで考える時間を必ず設けて、それぞれの知識だけでなく意識向上を図っています。委員一人ひとりが職場によって違うそれぞれのリスクを常に想定できるように、私たちも、教材作成や勉強に日々奮闘しています。



CSR本部 コンプライアンス推進室

(左) 佐藤 雅美 (右) 坂田 健

コンプライアンスに関するルールを明確化し、規程を整備しています

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員への周知を図るために、「コンプライアンス推進規程」をはじめとする規程を整備しています。

コンプライアンス 推進規程	コンプライアンスの実践やコンプライアンス推進体制などについて定めています。
社内通報規程	社内相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについて定めています。
内部者取引 管理規程	証券取引および関連法規に違反する内部者取引を未然に防止するために、役職員の職務に関して取得した未公表の内部情報（重要事実と同義）の管理、役職員の株式等の売買その他の取引および役職員の職務に際して遵守すべき基本的事項を定めています。
個人情報取扱規程	個人情報の取得、保管、利用、廃棄のプロセスを定めています。
パワハラ防止規程	2013年9月策定。パワハラの定義、してはいけないパワハラ行為を規程化しています。全従業員への周知のため、別途ガイドラインを作成し配布しています。

従業員のコンプライアンスに関する相談に、4つの窓口で対応

従業員が違法行為、社内ルール違反や社会的良識からの逸脱に気づいた場合の対応として、まず上司に報告することを基本としています。

しかし、それが難しく、従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として、コンプライアンス推進室の「社内相談窓口」など4つの窓口を設置し、相談に対応しています。相談の内容によっては、CSR本部が独立して対応にあたる場合もあります。

また、社外の方からのお申し出については、ホームページとお客さま相談室（フリーダイヤル：0120-01-1186）で承っています。



コンプライアンスカード

コンプライアンス教育をのべ291回実施し、のべ9,593人が受講

従業員のCSRやコンプライアンスに対する意識・関心を高め、行動に結びつけるために、コンプライアンス講習会、管理職研修、新入社員研修、階層別研修や部門研修、部課長会議、所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。

2014年度は6月から11月にかけて、「チームワーク」をテーマに全従業員を対象にコンプライアンス講習を行いました。その講習では、従業員が一体となって目標を追及し、チーム（伊藤ハムグループ）として成果をあげるために、一人ひとりの従業員による確実な業務遂行が必要であること、およびその業務遂行の根底にはコンプライアンスが大前提であることを再確認しました。

また、2014年5～10月には管理職を対象とした「パワハラ防止講習」を開催しました。これらを含め、2014年度中にコンプライアンス教育をのべ291回行い、のべ9,593人が受講しました。2015年度は、職場のコミュニケーションを図ることを目的とした教育を実施する予定です。



コンプライアンス勉強会

イントラネット、社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を共有

伊藤ハムグループでは、従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践につなげるために、コンプライアンスの周知・啓発活動を展開しています。

このような活動の効果を高めるために、社内イントラネットや社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を開示しています。



社内イントラネット（コンプライアンスページ）



社内報「躍動」

「コンプライアンスデー」を定め、周知・啓発活動を展開

従業員のコンプライアンス・マインドのさらなる浸透と定着を図るために、毎年9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、コンプライアンス意識調査の実施やポスターの掲示を行っています。

2014年度は、コンプライアンス意識調査でも意識浸透度を確認しました。また、役員等経営層による訓話をはじめとした、各職場でのコンプライアンスに関する講話を全部門で実施しました。さらに、物流部門においては、9月1日以前の1週間を「コンプライアンスプレウィーク」として設定し、各従業員による「コンプライアンス宣言」の寄せ書きを作成しました。



コンプライアンスハンドブック



パワハラ防止ガイドライン



ポスター

「コンプライアンス意識調査」の結果を活動方針・計画に反映

コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるとともに、従業員にその結果を報告し、各職場での実践につなげるために、グループ全従業員を対象とした「コンプライアンス意識調査」を年1回、実施しています。この調査の結果は、毎回、社内イントラネットに掲示しているほか、各職場で上司から部下へフィードバックしています。また、新たに「コンプライアンス意識の肯定的回答率」を算出し、コンプライアンス責任者会議にてフィードバックを行いました。

■ 第13回コンプライアンス意識調査結果（正社員対象）【抜粋】

目的：コンプライアンスの浸透状況を把握し、今後の活動にいかすため。

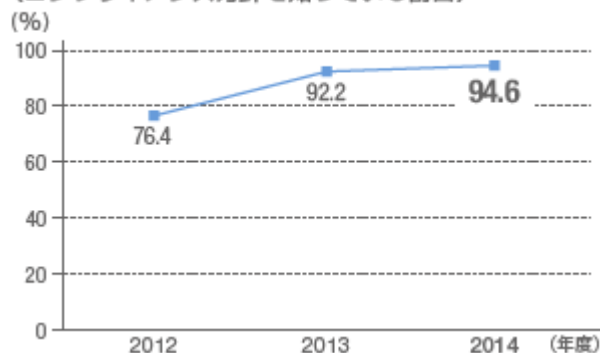
期間：2014年9月1日～2014年9月22日

対象者：伊藤ハムグループに所属する役員、執行役員、社員合計4,195名

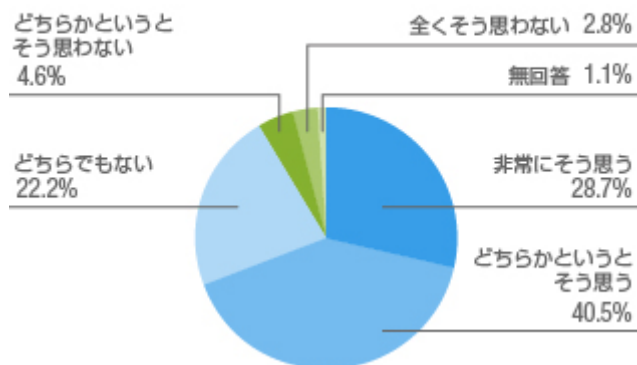
2014年度は各事業部門の組織や上司からの積極的な支援もあり、コンプライアンス委員活動が活性化し、2014年9月に行われた「コンプライアンス意識調査」では過去最高の正社員90.8%、準社員71.9%の回答を得ました。

調査の結果、職場での立場の違いによってコンプライアンスの意識の差が大きいことがわかり、「コミュニケーションを大切にする職場の実現」を活動方針に反映しました。

＜コンプライアンス方針を知っている割合＞



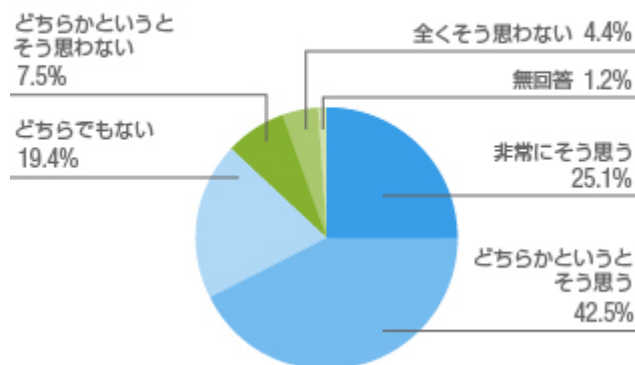
＜あなたの上司は、あなたの職場を担当するコンプライアンス委員の活動を積極的に支援をしている。＞



第12回（前回）結果

非常にそう思う	23.6%
どちらかというと思う	42.2%
どちらでもない	23.7%
どちらかというと思わない	5.6%
全くそう思わない	3.9%
無回答	1.0%

＜あなたの職場では、担当するコンプライアンス委員が積極的にかつ定期的に活動をしている。＞



第12回（前回）結果

非常にそう思う	19.2%
どちらかというと思う	41.3%
どちらでもない	22.4%
どちらかというと思わない	10.4%
全くそう思わない	5.6%
無回答	1.2%

ガバナンス



リスクマネジメント

リーガルリスクマネジメント、BCPの双方を推進

事業部門ごとに業務や取引に関連する法令を抽出し、モニタリング活動を行うリーガルリスクマネジメントに加えて、自然災害を想定したBCPに取り組んでいます。

前者については、各部門の各職場責任者が自部門に関連した法令リスクを洗い出して1次モニタリングを実施し、その後2次モニタリングとして同部門の監査チーム、および、客観的な視点で監査することを目的としたリーガルリスクマネジメント事務局立ち会いのもと、モニタリングに漏れがないかチェックしています。

一方、自然災害を想定したBCPについては、2014年度において「南海トラフ巨大地震」を想定したBCPを策定し、その訓練を2015年度中に実施する予定です。

公正な取引

下請法をはじめ、法令遵守を徹底

業務、取引に関連する従業員には、各事業部門の特性に合わせて構成された研修を受講させることで、法令遵守を徹底しています。

情報セキュリティ

ビデオ講習などを通じて、情報セキュリティを強化

従業員がITを利用する際のルールを「伊藤ハムグループIT利用規則」として定め、ITの効果的活用を目指すとともに、法令・社内の諸規程および社会倫理に反する利用や、お客様や社会全般に不利益を与えるような利用を厳しく禁じています。併せて、情報資産のセキュリティ確保および個人情報の保護といった社会的責任を果たすべく、インターネットに潜むサイバー攻撃などの脅威やモバイル機器の取扱いに伴うトラブルなど、情報資産にかかわるリスクを継続的に評価しています。

さらに近年、ソーシャルメディアの利用に関連したトラブルが社会問題化していることを鑑み、2012年度から「伊藤ハムグループ ソーシャルメディアの利用に関するガイドライン」を策定し、運用しています。

このほか、責任者クラス、関連部署の従業員を対象とした情報セキュリティ教育にビデオ講習を取り入れるなど、従業員に情報資産の大切さを身近に感じてもらえるような工夫も取り入れながら、情報セキュリティの維持・強化に努めています。

コーポレートガバナンス

内部統制機能を充実させ、コーポレートガバナンスを強化

企業としての社会的責任を十分に果たし、すべてのステークホルダーから信頼を得るために、透明性の高い経営を行うべく、コーポレートガバナンスの強化を目指しています。これからも、監督・監視など内部統制機能を充実させたコーポレートガバナンス体制の整備に努め、経営における的確な意思決定とスピーディな業務執行を行ってまいります。



ISO14001・ISO22000・ISO9001 認証取得工場一覧

■ 伊藤ハムグループのISO14001認証取得事業所

サイト名		認証機関	登録年月
伊藤ハム（株）	西宮工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年2月
	東京工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年9月
	豊橋工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構（JACO）	2001年10月
伊藤ハムウエスト（株）	九州工場	日本環境認証機構（JACO）	2002年2月
伊藤ハムデイリー（株）	東北工場	日本環境認証機構（JACO）	2004年5月
	小樽工場	日本環境認証機構（JACO）	2006年4月
	北陸工場	日本環境認証機構（JACO）	2006年8月
サンキョーミート（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2002年3月
IHミートパッカー（株）	統合認証	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年3月
IHミートソリューション（株）	統合認証	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年3月
沖縄フレッシュパック（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年2月
（株）藤栄		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年2月
アイエイチロジスティクスサービス（株）	仙台センター	インターテック・サーティフィケーション	2014年2月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

※アイエイチロジスティクスサービス(株)仙台センターは、2004年3月に認証を取得しましたが、認証機関を変更したため登録年月は2014年2月となります。

■ 伊藤ハムグループのISO22000認証取得事業所

サイト名		認証機関	登録年月
サンキョーミート（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2005年12月
IHミートパッカー（株）	宮城ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2006年3月
	東京ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2007年2月
	十和田ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年1月
	名古屋ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年3月
IHミートソリューション（株）	神戸パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年3月
	札幌パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
	九州パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
	仙台パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2012年3月
沖縄フレッシュパック（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年11月
（株）藤栄		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
筑紫ファクトリー（株）北九州工場		BSIマネジメントシステム・ジャパン	2009年3月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

■ 伊藤ハムグループのISO9001認証取得事業所

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート（株）	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	1999年12月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

環境



地球環境問題を重要な経営課題として認識した上で、地球環境を保全するために、環境関連法を遵守するとともに、省エネルギー、省資源、廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図り、廃棄物の資源リサイクルを推進します。これらの取り組みによって、循環型社会の形成と地球環境負荷低減に貢献します。

基本的な考え方

環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

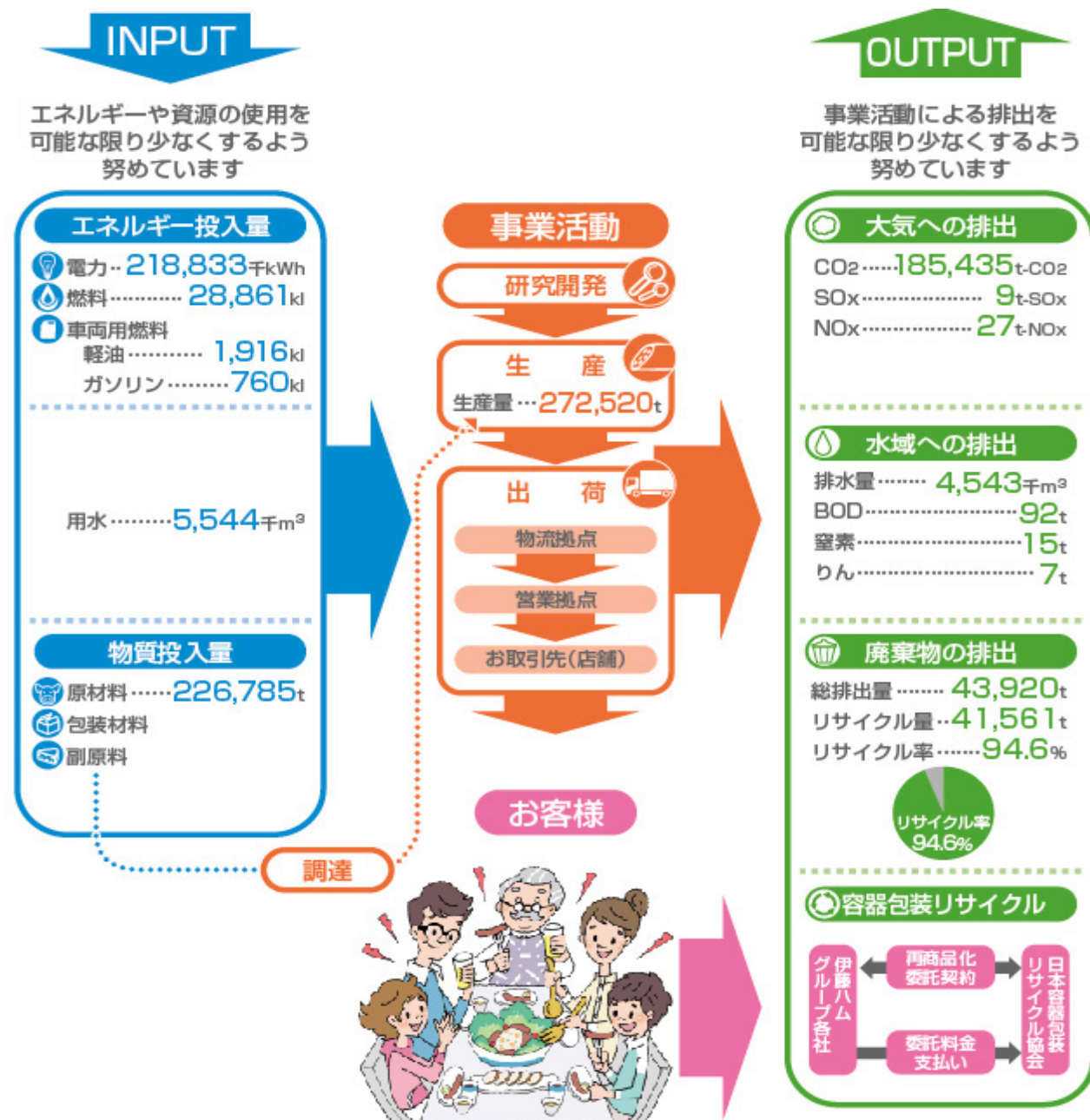
行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、CSR報告書により情報開示します。

環境



環境負荷の全体像（対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日）



対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部門 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部門 ■浅草ハム(株)関東工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、川崎、仙台、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

環境



環境目標

第5次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

2014年度は、ボイラーの更新、ボイラーの燃料を重油から天然ガスへ転換、冷凍機の更新、冷却水循環装置の導入等を実施し、次の通りの結果となりました。

■ 第5次中期環境目標

項 目		単 位	基準年度 (2012年度)	2014年度 目標値		2014年度 結果		自己 評価
				数値	増減	数値	増減	
①	総エネルギー使用量削減	生産原単位 (GJ/t)	10.5	10.3	▲2%	10.7	1.7%	
	用水使用量削減	生産原単位 (m³/t)	19.9	19.5	▲2%	20.2	1.7%	
②	廃棄物排出量削減	生産原単位 (kg/t)	171	167	▲2%	157	▲8.2%	
	廃棄物のリサイクル推進	リサイクル率 (%)	95.2	97.0	1.8 ポイント	95.4	0.2 ポイント	
③	CO2排出量削減	生産原単位 (kg-CO2/t)	599	587	▲2%	591	▲1.4%	
④	事務用品のグリーン購入推進	購入率 (%) (金額ベース)	90.3	95.5	5.2 ポイント	76.0	▲14.3 ポイント	
	事務機器のグリーン購入推進	購入率 (%) (数量ベース)	100.0	100.0	0.0 ポイント	99.8	▲0.2 ポイント	

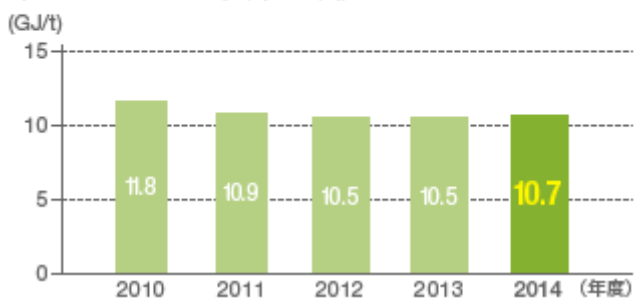
※ ①～③は生産原単位 総エネルギー 熱量換算 (購入電力 + 燃料 + 購入蒸気)

1. 省エネルギー、省資源の推進

・総エネルギー生産原単位は
1.7%増加しました。

自己評価
not Good

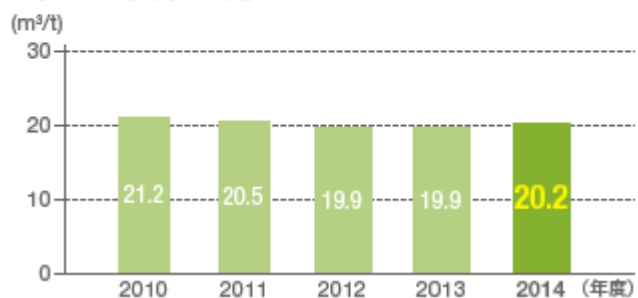
〈総エネルギー生産原単位の推移〉



・用水生産原単位は**1.7%増加**しました。

自己評価
not Good

〈用水生産原単位の推移〉



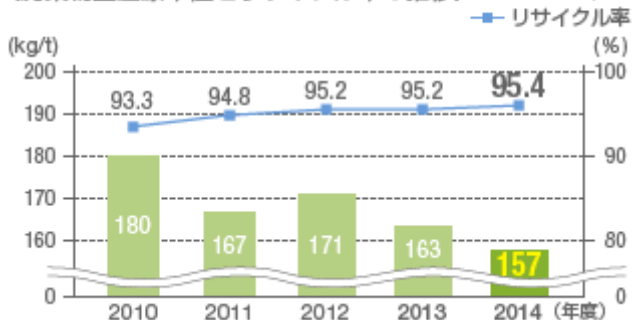
2. 廃棄物の削減とリサイクルの推進

・廃棄物生産原単位は**8.2%削減**。

・リサイクル率は**0.2ポイント**
上がりました。

自己評価
Good Attention
排出量 リサイクル率

〈廃棄物生産原単位とリサイクル率の推移〉

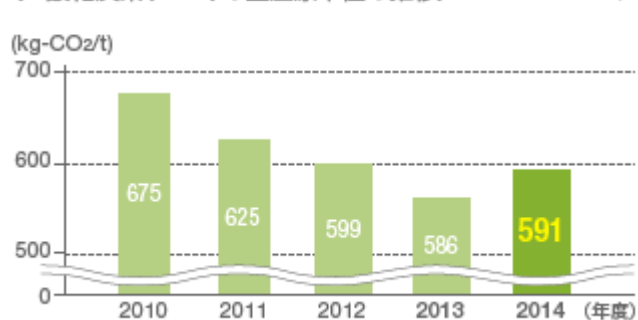


3. 温室効果ガスの排出削減

・二酸化炭素(CO₂)生産原単位は
1.4%削減しました。

自己評価
Attention

〈二酸化炭素(CO₂)の生産原単位の推移〉



4. グリーン購入の推進

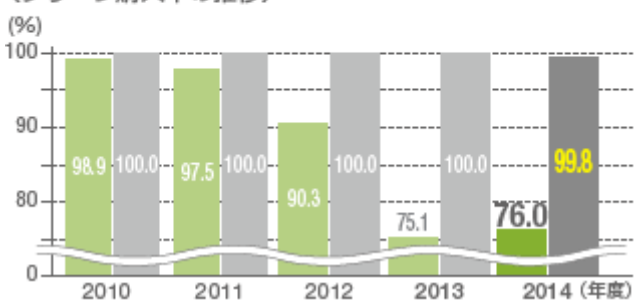
・事務用品のグリーン購入率は

14.3ポイント下がりました。

・事務機器は**0.2ポイント下**がりました。

自己評価
not Good Attention
事務用品 事務機器

〈グリーン購入率の推移〉



〈自己評価〉



2014年度の実績が
目標値の100%以上
に改善。



2014年度の実績が基準年度(2012
年度)比でほぼ横ばい。継続して取
組みを進めます。



2014年度の実績が基準年
度(2012年度)を下回り
ました。
継続して、より一層取り
組みを進めます。

対象範囲 1、2、3

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、川崎、仙台、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック(株)、(株)藤栄

対象範囲 4

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場

環境



環境マネジメント

環境保全活動の効果を高めるために、環境マネジメントシステムを構築・運用しています

伊藤ハムグループは、環境保全活動の効果を高め、持続可能な社会の構築に貢献していくために、環境マネジメントシステムを構築し運用しています。

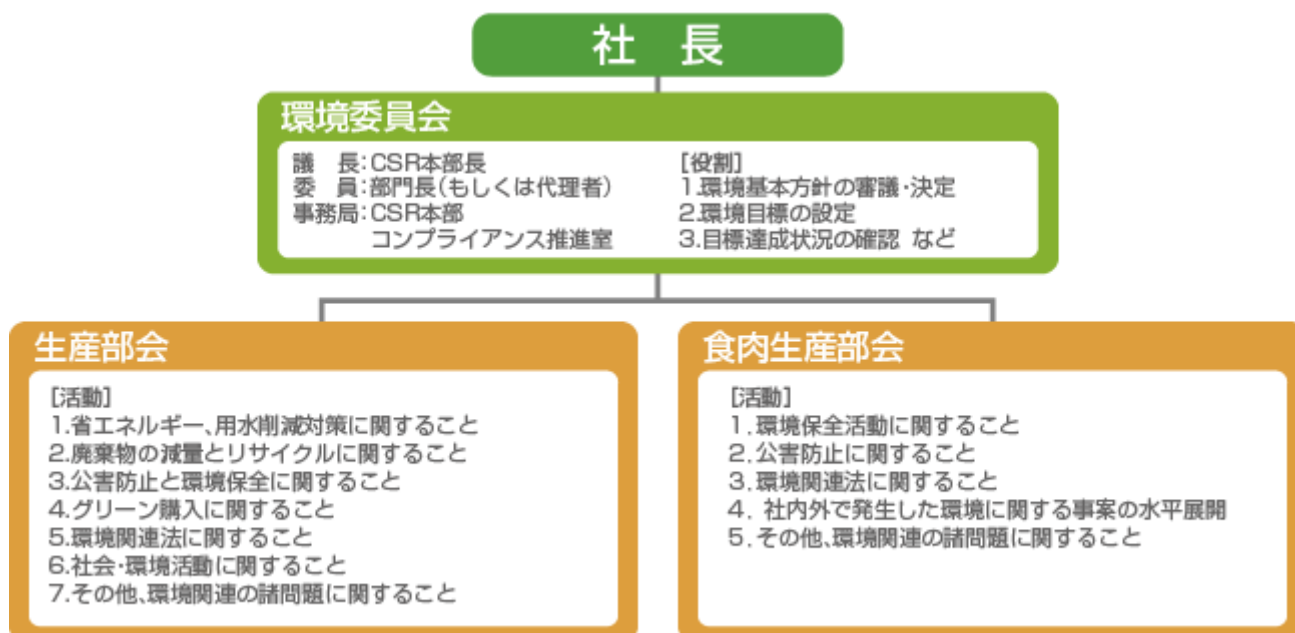
主要な生産工場では、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、環境保全活動を推進しています。

環境課題へ迅速かつ円滑に対応するために、環境管理体制を構築しています

環境マネジメントを推進し、省エネルギーや省資源、廃棄物の資源リサイクルなど、環境保全に関わるさまざまな課題に対して迅速かつ円滑に対応するために、環境管理体制を構築しています。

また、環境基本方針や目標設定などの全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定しています。

■ 環境マネジメント組織体制



活動のさらなるレベルアップを図るために環境監査を実施するとともに法令遵守を行っています

事業所内で実施する内部環境監査はもちろん、環境汚染や環境事故を防止し、環境保全活動のさらなるレベルアップを図るために、CSR本部監査室が、年度の計画に基づいて主要事業所の監査を実施しています。

2014年度は、合計77事業所の監査を実施しました。

また、事業所ごとにも環境監査を実施しています。

環境関連法や、環境保全協定などで定められた規制値を守るとともに、指摘事項には迅速に対処し是正を図ることで、法令の遵守を徹底しています。



CSR本部監査室による環境監査

- ▶大気汚染防止法
- ▶水質汚濁防止法
- ▶特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- ▶廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
- ▶食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)
- ▶資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)
- ▶容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)
- ▶エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネルギー法)
- ▶フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)
- ▶地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策推進法)
- ▶自治体との環境保全協定 など

ISO14001認証取得

環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を実施するために、環境に関する国際規格であるISO14001を認証取得しています。

グリーン購入

「グリーン購入基本方針」と「グリーン購入ガイドライン」を制定し、環境に配慮した物品の優先的な購入に取り組んでいます。

環境管理に関するお問い合わせに迅速かつ誠実な対応を心がけるとともに、 環境事故には迅速に対応しています

環境管理に関するお問い合わせに対して、その都度、迅速かつ誠実な対応を心がけています。

対応策実施後はその効果を確認し、お問い合わせをいただいた方に報告し、ご了解をいただいています。
2014年度は次のようなお問い合わせをいただきました。

■ お問い合わせ内容と対応策の事例（2014年度）

内 容		対応策
騒音	工場から「シュー」という大きな音が聞こえる。	蒸気配管の蒸気バルブ部分のパッキンの破損により、蒸気が噴出し騒音が発生していることが判明。修理しました。
	工場から「ドン」という荷卸しをしているような音が聞こえる。	ホイストクレーンで台車を上下動、移動させる際、レールのストッパーに当たる音がお問い合わせの音に近いと推察。運転者にストッパーに当てずに停止するよう指導するとともに、操作を誤った場合に備え、衝撃音を抑えるために、レールの終端部分にゴムダンパーを取り付けました。

緊急時の対応策

汚水や重油、薬品の漏洩など、環境汚染を引き起こすような突発的な事故を想定し、その影響の拡散を防ぎ、汚染を最小限にするとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。

万一事故が発生したときには、社内間の連絡と必要に応じて行政機関や地域住民への連絡を円滑に行うように規程を定め運用しています。



薬品の漏洩対応訓練（東京工場）

環境



環境コミュニケーション

環境情報開示

「環境保全活動をはじめ、CSR活動について、社内外へ情報発信することは企業の果たすべき責任である」という認識のもと、ホームページを通じて積極的に情報を開示しています。

2000年から毎年、報告書を発行してCSR活動に関する情報を開示しています

環境保全活動をはじめ、伊藤ハムグループのCSR活動をご理解いただくために、2000年から毎年、CSR報告書を発行※しています。環境負荷の低減を考慮して2012年に冊子を廃止し、ホームページで情報を開示しています。

また、ホームページには、CSR報告書に関するご意見、ご感想などを投稿いただけるように、専用フォームを設けています。

※2000年はエコレポート、2001年～2004年は環境報告書、2005年～2007年は社会・環境報告書、2008年よりCSR報告書として発行。



「CSRの取り組み」ホームページ

従業員教育・地域とのコミュニケーション

従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、継続的に環境保全に取り組む企業風土を醸成するために、環境教育や意識啓発活動を実施しています。

このような取り組みの一環として、従業員がボランティア活動を通じて、環境保全の大切さを学ぶ「環境ボランティア体験学習」を実施しています。また、「食と環境の出前授業」を実施し、地域の皆様との交流を深めています。

「環境ボランティア体験学習」を通して生物多様性への取り組みを推進しています

ビーチクリーンアップ活動

野生動物がえさと間違えてプラスチックごみやタバコのフィルターなどを誤食しないことを願って、事業所周辺や海岸のクリーンアップ活動を実施しています。甲子園浜（兵庫県西宮市）では、海を漂い、海鳥や魚類への悪影響が懸念されるレジンペレット※の回収を実施しました。

※プラスチック製品の間接材料。事業場からの漏れ出し、船からの荷こぼれ、不法投棄などで河川や湖沼、海洋に流出すると、長い年月にわたり分解されず、環境問題になっている。また漂流物を鳥や魚が誤食することで、生体に何らかの影響が生じる可能性が懸念されている。



ビーチクリーンアップ活動（甲子園浜）

森林保護活動

「こうべ森の学校」、「高尾の森づくりの会」に参加し、間伐作業や植樹などの森林保護活動を行っています。



課外授業「こうべ森の学校」

「食と環境の出前授業」を実施し、地域との交流を深めています

NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）の「環境学習支援プロジェクト」に参加しています。

また、教育機関等からの要望に応じて当社の従業員を講師として派遣する、「食と環境の出前授業」を通じて、地域との交流を深めています。



「食と環境の出前授業」
（近鉄百貨店上本町店）



環境



環境負荷低減の取り組み

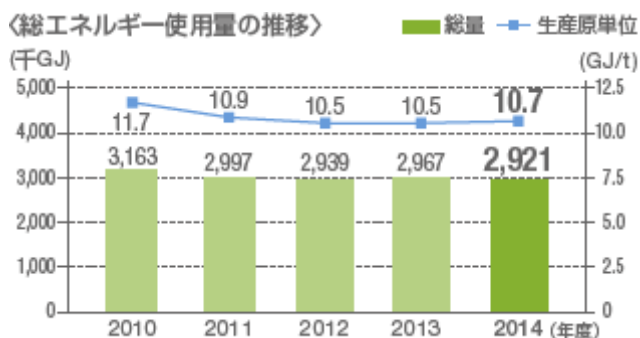
伊藤ハムグループでは、電力・燃料・用水の使用量や二酸化炭素・廃棄物の排出量を削減するために、さまざまな環境負荷低減の取り組みを実施しています。2014年度に実施した主な取り組みは次のとおりです。

生産事業所の取り組み

より効率の良い機器への更新などで省エネを図るとともに、ボイラー燃料を重油から天然ガスへ転換するなど、二酸化炭素排出量を削減しています

- 効率の良いボイラーに更新しました。
- ボイラーの燃料を重油から天然ガスに転換、ボイラーも天然ガス焼きボイラーに更新しました。〔伊藤ハムデイリー(株)小樽工場、サンキョーミート(株)有明ミート工場〕
- 効率の良い冷凍機に更新しました。
- 廃水処理設備のプロアーを効率の良いプロアーに更新しました。
- 効率の良い変圧器に更新しました。
- 夏期、工場屋根や室外機に散水／ルーフシェード（日よけシート）の設置などによって、設備全体の温度を下げ、冷房の負荷を低減しました。
- 高効率照明器具への更新を進めました。

▶ 活動ハイライト 環境保全活動「伊藤ハムデイリー小樽工場CO₂排出量削減の取り組み」は[こちら](#)



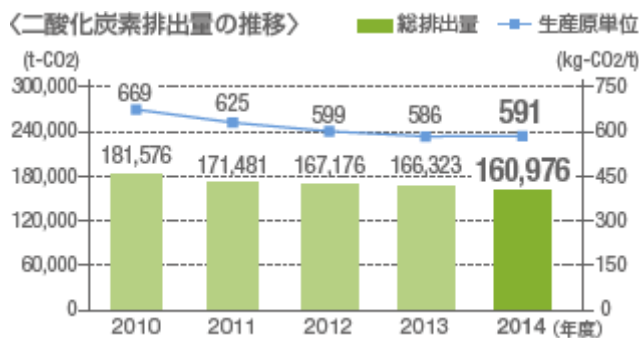
効率の良いボイラー（六甲工場）



天然ガス焼きボイラー（伊藤ハムデイリー(株)小樽工場）



天然ガス受入状況および天然ガス貯蔵タンク（サンキョーミート(株)有明ミート工場）



効率の良い冷凍機（東京工場）



効率の良いブロアー（神戸工場）

冷却水や蒸気ドレン水を再利用し、用水使用量を削減しています

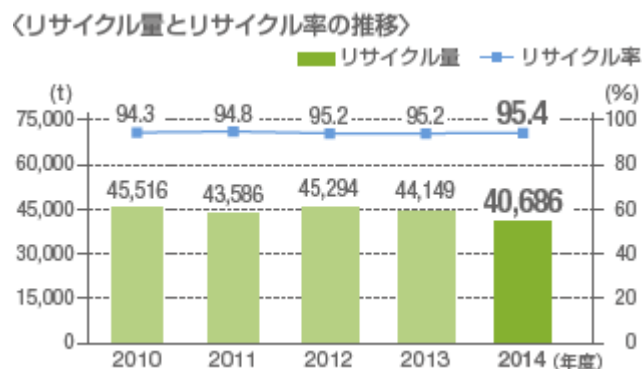
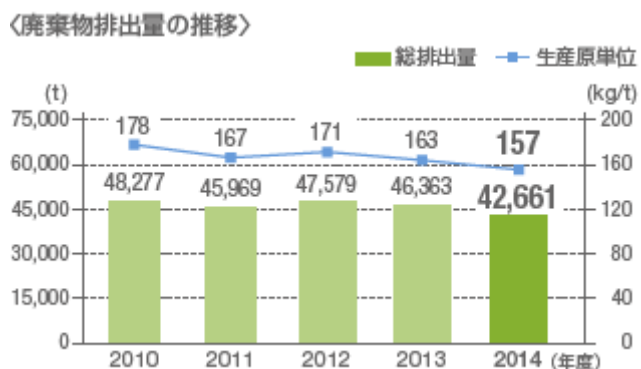
- 冷却水を再利用しました。
- 蒸気ドレン水を回収して、ボイラー用水に再利用しました。



冷却水循環装置（取手工場）

廃棄物の発生抑制、減容を推進するとともに、リサイクル率を高めています

- 原料肉の包装で使用されていたポリシートを廃棄する際に、水切りを実施しました。
- 排水に流していた脂分の除去に努め、廃水処理設備の負荷を低減し、汚泥を削減しました。
- 廃ポリシートをマテリアルリサイクルしました。



生産事業所対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場 ■IHミートパッカー(株)名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、川崎、仙台、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック(株) ■(株)藤栄

事務所・営業所・物流センターの取り組み

クールビズ、ウォームビズを実施、輸送効率の向上などにより、電力・燃料使用量の削減に努めています

- クールビズ、ウォームビズを実施、夏場は室温が28℃、冬場は20℃となるように空調機の温度設定を調整し、節電に取り組みました。
- LED照明への切り替えを進めました。
- 積み合わせ輸送・混送便の利用、輸送量に応じた適正車種の選択、輸送ルートの見直しなどで、輸送効率を向上させました。
- 保有車両の低公害車（低燃費、低排出ガス自動車、アイドリングストップ機能搭載車、ハイブリッド車など）への転換、台数の低減に努めました。
- 車両へのエコドライブステッカーの貼り付け、「エコドライブ推進月間」である11月にポスターを掲示するなどにより、従業員の意識を啓発し、エコドライブを促進しました。



クールビズポスター



「エコドライブ推進月間」ポスター

〈電力使用量の推移〉



〈車両燃料(軽油・ガソリン)使用量の推移〉



事務所・営業所・物流センター対象範囲

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所
 ■伊藤ハムデイリー(株)営業部各営業所 ■伊藤ハムウエスト(株)営業部各営業所 ■伊藤ハム販売(株)各営業所 ■伊藤ハムミート販売(株)各営業所 ■伊藤ハムミート販売西(株)各営業所 ■アイエイチロジスティクスサービス(株)各営業所および各センター

環境



環境会計

2001年度より主要生産工場の環境関連施設や環境に関わる取り組みに投入したコスト、投入コストに伴う環境保全効果を集計し、環境経営に利用しています。前期との比較を容易にするため、前期実績と当期実績および増減値を記載しています。

2014年度環境会計の分析

2014年度は、ボイラーや冷凍機の更新、廃水処理設備で使用するブロアーの更新、LED照明への切り替えなどの投資を行いました。また、上・下流コストなどが減少したことにより、環境保全コストの費用額は昨年より減少しました。

環境関連施設の改善、維持管理に関しては、今後も内容を精査しながら対策を進め、効果的な投資を行っていきます。

■ 環境保全コスト

(単位 千円)

分類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		前期	当期	増減	前期	当期	増減
事業エリア内コスト		133,713	259,077	125,364	983,473	998,788	15,315
公害防止コスト	環境関連施設の改善、維持管理	12,662	34,150	21,488	682,321	695,342	13,021
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	93,182	184,153	90,971	28,576	36,371	7,795
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル及び処理処分費用	27,869	40,774	12,905	272,576	267,075	▲ 5,502
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料等	0	0	0	177,573	130,688	▲46,885
管理活動コスト	EMSの構築、環境保全に係る人件費等	0	0	0	17,842	12,084	▲ 5,758
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	緑化・その他環境活動費用	0	0	0	8,142	6,912	▲ 1,230
環境損傷コスト	燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	1,100	998	▲ 102
合 計		133,713	259,077	125,364	1,188,131	1,149,470	▲ 38,661

■ 環境保全効果

効果の内容	環境パフォーマンス指標（単位）	前期	当期	原単位調整効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	2,300,240	2,269,450	▲ 137,128
	電力エネルギー投入量 (GJ)	1,335,862	1,335,861	▲ 97,517
	その他燃料投入量 (GJ)	964,378	933,590	▲ 39,612
	用水の投入量 (千m ³)	4,045	3,909	▲ 159
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	123,456	120,047	▲ 8,910
	廃棄物総排出量 (t)	21,430	21,563	▲ 1,698
	総排水量 (千m ³)	3,022	3,111	▲ 310
	BOD排出量 (t)	82	67	9
	SOx排出量 (t)	12	9	2

* 指標の値 原単位調整効果：生産原単位を加味した削減効果
 【前期投入量（排出量）×（当期生産量／前期生産量）－当期投入量（排出量）】
 当期生産量／前期生産量＝0.927

* エネルギー投入量は、購入電力、燃料を熱量換算した値（GJ）

■ 環境保全対策にともなう経済効果

（単位：千円）

効果の内容		総金額	原単位調整金額
収益	廃棄物の有価売却による収益	48,236	44,715
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減（電力・燃料）	▲ 215,099	▲ 503,509
	用水に係る費用の削減	26,462	▲ 4,129
	廃棄物処理費の削減	▲ 7,201	▲ 24,625

* 指標の値 収益：当期収益
 費用削減：前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】
 原単位調整金額：生産原単位を加味した収益【当期収益－（当期生産量／前期生産量）】
 費用削減・生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×（当期生産量／前期生産量）－当期費用】
 当期生産量／前期生産量＝0.927

■ 集計方法、集計期間、集計範囲

1. 集計方法

- ① 投資額および減価償却費は、100%環境目的のもののほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
- ② 環境保全効果については原単位調整効果、経済効果については、効果の総金額と原単位調整金額の両方で集計しました。
- ③ 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン（2005年版）」を参考にしました。

2. 集計期間

2014年4月1日～2015年3月31日

3. 集計範囲

伊藤ハム(株)（神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場）

伊藤ハムデイリー(株)（東北、小樽、北陸各工場）

伊藤ハムウエスト(株)九州工場

環境



▼ 環境データ ▼ サイトデータ

環境データ

伊藤ハムグループ全体の環境負荷

■ 2013年度 緊急時の対応訓練

事業所名		訓練の内容	参加者数（人）
伊藤ハム(株)	六甲工場	汚水・汚泥の漏えい対応	2
	西宮工場	汚水・薬品の漏えい対応訓練	4
	豊橋工場	フロンガスの漏えい対応訓練	8
		重油の漏えい対応訓練	8
	東京工場	廃油の漏えい対応訓練	6
		汚水・薬品の漏えい対応訓練	6
伊藤ハムデイリー(株)	東北工場	汚泥・汚水・薬品の漏えい対応訓練	2
		フロンガスの漏えい対応訓練	5
		重油の漏えい対応訓練	5
	小樽工場	重油・汚水の漏えい対応訓練	3
		フロンガスの漏えい対応訓練	3
	北陸工場	汚泥・重油の漏えい対応訓練	2
伊藤ハムウエスト(株)	九州工場	薬品の漏えい対応訓練	4
		不完全処理水の流出防止対応訓練	4
		フロンガスの漏えい対応訓練	7
サンキョーミート(株)	有明ミート工場	LNG（液化天然ガス）の漏えい対応訓練	8
	霧島ミート工場	重油の漏えい対応訓練	6
IHミートソリューション(株)	九州パックセンター	オイルの漏えい対応訓練	5
	札幌パックセンター	薬剤の漏えい対応訓練	5
(株)藤栄		排水処理設備の故障停止にともなう臭気発生時の対応訓練	4

■ ISO14001認証取得事業所

サイト名		認証機関	登録年月
伊藤ハム（株）	西宮工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年2月
	東京工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年9月
	豊橋工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構（JACO）	2001年10月
伊藤ハムデイリー（株）	東北工場	日本環境認証機構（JACO）	2004年5月
	小樽工場	日本環境認証機構（JACO）	2006年4月
	北陸工場	日本環境認証機構（JACO）	2006年8月
伊藤ハムウエスト（株）	九州工場	日本環境認証機構（JACO）	2002年2月
サンキョーミート（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2002年3月
IHミートパッカー（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年3月
IHミートソリューション（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年3月
沖縄フレッシュパック（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年2月
（株）藤栄		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年2月
アイエイチロジスティクスサービス（株）	仙台センター	インターテック・サーティフィケーション	2014年2月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

※アイエイチロジスティクスサービス(株)仙台センターは、2004年3月に認証を取得しましたが、認証機関を変更したため登録年月は2014年2月となります。

■ ISO22000認証取得事業所

サイト名		認証機関	登録年月
サンキョーミート（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2005年12月
IHミートパッカー（株）	宮城ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2006年3月
	東京ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2007年2月
	十和田ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年1月
	名古屋ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年3月
IHミートソリューション（株）	神戸パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年3月
	札幌パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
	九州パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
	仙台パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2012年3月
沖縄フレッシュパック（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年11月
（株）藤栄		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
筑紫ファクトリー（株）北九州工場		BSIマネジメントシステム・ジャパン	2009年3月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

■ ISO9001認証取得事業所

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート(株)	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	1999年12月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

■ エネルギー等使用量の推移

		合計				
		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
電力	総量(千kWh)	234,336	219,980	216,337	222,180	218,833
燃料 ※1	総量(kl)	35,197	33,043	32,079	32,909	31,518
総エネルギー ※2	総量(GJ)	3,586,493	3,392,940	3,332,102	3,424,827	3,345,129
用水	総量(千m ³)	5,757	5,661	5,582	5,684	5,544
		伊藤ハム				
		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
電力	総量(千kWh)	141,582	110,024	107,730	103,368	103,392
燃料 ※1	総量(kl)	19,941	16,101	15,894	16,208	15,284
総エネルギー ※2	総量(GJ)	2,187,661	1,635,605	1,600,300	1,590,873	1,558,541
用水	総量(千m ³)	3,441	2,868	2,743	2,761	2,655
		関連会社				
		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
電力	総量(千kWh)	92,754	109,956	108,607	118,812	115,441
燃料 ※1	総量(kl)	15,256	16,942	16,185	16,701	16,234
総エネルギー ※2	総量(GJ)	1,398,832	1,757,335	1,731,802	1,833,954	1,786,588
用水	総量(千m ³)	2,316	2,793	2,839	2,923	2,890

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算（購入電力＋燃料＋購入蒸気）

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2010～2011年度）、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部門 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部門 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場（2010～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター（ただし関西ミートセンターは2010～2012年度） ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター（ただし茨城、青森各バックセンターは2010～2011年度） ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

■ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場のエネルギー等使用量の推移

		合計				
		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
電力	総量 (千kWh)	162,727	151,503	148,093	145,719	144,350
	生産原単位 (kWh/t)	1,213	1,157	1,153	1,105	1,180
燃料 ※1	総量 (k l)	24,347	24,802	24,790	25,814	24,903
	生産原単位 (l/t)	182	189	193	196	204
総エネルギー ※2	総量 (G J)	2,566,852	2,412,887	2,355,457	2,373,494	2,328,186
	生産原単位 (G J/t)	19	18	18	18	19
用水	総量 (千m ³)	4,269	4,184	4,063	4,151	3,996
	生産原単位 (m ³ /t)	32	32	32	32	33
		伊藤ハム				
		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
電力	総量 (千kWh)	134,356	103,026	101,627	99,780	99,809
	生産原単位 (kWh/t)	1,226	1,113	1,127	1,090	1,212
燃料 ※1	総量 (k l)	19,521	16,303	15,805	16,126	15,206
	生産原単位 (l/t)	178	176	175	176	185
総エネルギー ※2	総量 (G J)	2,101,708	1,589,603	1,555,416	1,552,156	1,519,991
	生産原単位 (G J/t)	19	18	17	17	19
用水	総量 (千m ³)	3,424	2,850	2,727	2,745	2,639
	生産原単位 (m ³ /t)	31	31	30	30	32
		関連会社				
		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
電力	総量 (千kWh)	28,371	48,477	46,466	45,939	44,541
	生産原単位 (kWh/t)	1,154	1,262	1,215	1,141	1,114
燃料 ※1	総量 (k l)	4,827	8,499	8,985	9,058	9,697
	生産原単位 (l/t)	196	221	235	241	242
総エネルギー ※2	総量 (G J)	465,143	823,284	800,041	821,338	808,195
	生産原単位 (G J/t)	17	21	21	20	20
用水	総量 (千m ³)	845	1,334	1,336	1,406	1,357
	生産原単位 (m ³ /t)	34	35	35	35	34

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算（購入電力＋燃料＋購入蒸気）

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2010～2011年度） ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場（2010～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場

■二酸化炭素（CO₂）の排出量の推移

	合計				
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
排出量（t-CO ₂ ）	207,223	195,095	189,699	191,639	185,435
	伊藤ハム				
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
排出量（t-CO ₂ ）	122,508	93,507	88,739	79,001	76,167
	関連会社				
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
排出量（t-CO ₂ ）	84,715	101,587	100,960	112,638	109,268

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2010～2011年度）、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部門 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部門 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場（2010～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター（ただし関西ミートセンターは2010～2012年度） ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター（ただし茨城、青森各パックセンターは2010～2011年度） ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

■ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場の二酸化炭素（CO₂）排出量の推移

	合計				
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
排出量（t-CO ₂ ）	145,950	136,898	133,683	127,821	123,618
生産原単位（kg-CO ₂ /t）	1,088	1,045	1,041	970	1,010
	伊藤ハム				
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
排出量（t-CO ₂ ）	117,472	88,700	86,719	77,262	74,293
生産原単位（kg-CO ₂ /t）	1,072	958	962	844	902
	関連会社				
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
排出量（t-CO ₂ ）	28,478	48,198	46,964	50,559	49,325
生産原単位（kg-CO ₂ /t）	1,158	1,255	1,228	1,255	1,233

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2010～2011年度） ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場（2010～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場

■ グリーン購入の推移

対象品目			グリーン購入の割合（％）				
			2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
事務用品 (金額ベース)	文具類	筆記具、ファイル等	96.8	97.5	97.8	95.7	97.1
	紙類	コピー用紙、コンピュータ用紙など	99.6	97.5	87.1	69.8	70.5
	合計		98.9	97.5	90.3	75.1	76.0
事務機器 (数量ベース)	ＯＡ機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリなど	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	オフィス家具類	事務用机、椅子、ＯＡテーブルなど	100.0	100.0	100.0	100.0	98.3
	合計		100.0	100.0	100.0	100.0	99.8
その他	照明器具類	ランプ、蛍光灯器具など	88.4	84.2	81.4	88.2	89.0

対象範囲

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2010～2011年度） ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場（ただし2010～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場



神戸工場



所在地

〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋町西6-20-1

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	1,286	1,223	1,189	1,275	1,433
燃料 (l/t)	178	230	225	216	213
総エネルギー (GJ/t)	19	21	20	21	22
用水 (m ³ /t)	16	17	17	17	20
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,054	1,119	1,091	1,064	1,150

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	1,017	880	974	1,019	991
リサイクル率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.7	6.2	7.2
BOD (mg/l)	2,000	2,000	720.0	110.0	343.3
SS (mg/l)	2,000	2,000	500.0	47.0	278.6

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	6基	150	150	50	29
ばいじん (g/Nm³)	6基	0.1	0.1	0.002	0.001

六甲工場



所在地

〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋
町西5-7

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	1,628	1,492	1,689	1,268	1,143
燃料 (l/t)	166	159	192	178	165
総エネルギー (GJ/t)	22	21	24	19	17
用水 (m³/t)	30	30	33	31	30
CO₂ (kg-CO₂/t)	1,221	1,132	1,305	988	796

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	858	868	719	663	727
リサイクル率 (%)	100.0	99.1	99.8	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.7	7.1	7.4
BOD (mg/l)	2,000	180	9.0	1.0	3.6
SS (mg/l)	2,000	90	12.0	1.0	3.7

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	3基	150	40	20	20
ばいじん (g/Nm³)	3基	0.1	0.02	0.001	0.001

西宮工場



所在地
〒663-8586
兵庫県西宮市高畑町4-27

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力（kWh/t）	803	802	869	988	1,123
燃料（l/t）	169	164	168	174	196
総エネルギー（GJ/t）	14	14	15	15	17
用水（m ³ /t）	25	23	24	25	27
CO ₂ （kg-CO ₂ /t）	769	759	805	786	800

※ 電力は購入電力のみ、燃料はコージェネシステム発電用を含む全燃料を計上しました。

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量（t）	2,992	2,313	2,016	2,600	2,948
リサイクル率（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.5	8.3	7.6	7.8
BOD（mg/l）	300	200	50.0	8.5	22.5
SS（mg/l）	750	400	47.0	10.4	21.4

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NO _x （ppm）	A（7基）	60	45	28	21
	B（2基）	150	120	22	20
ばいじん（g/Nm ³ ）	A（7基）	0.05	0.02	0.003	0.003
	B（2基）	0.05	0.02	0.005	0.004

豊橋工場



所在地

〒441-8686
愛知県豊橋市藤並町藤並
73

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	1,401	1,414	1,327	1,231	1,307
燃料 (l/t)	172	175	167	162	166
総エネルギー (GJ/t)	20	21	19	18	19
用水 (m ³ /t)	46	51	48	44	46
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,237	1,250	1,181	1,065	1,112

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	2,869	3,190	3,023	2,841	2,753
リサイクル率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.5～8.5	7.9	7.4	7.7
BOD (mg/l)	20	15	5.8	1.6	3.1
SS (mg/l)	20	15	6.0	1.0	3.6

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SO _x (Nm ³ /h)	7基	2.2	1.0	0.071	0.040
NO _x (ppm)	7基	-	180	77	67
ばいじん (g/Nm ³)	7基	-	0.1	0.002	0.002

東京工場



所在地

〒277-8586
千葉県柏市根戸1-3

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	1,030	1,017	1,059	1,043	1,263
燃料 (l/t)	169	173	171	178	198
総エネルギー (GJ/t)	16	17	17	17	20
用水 (m ³ /t)	31	32	31	32	37
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	895	896	915	719	905

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	5,931	6,097	5,974	6,045	5,239
リサイクル率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.9	7.6	7.8
BOD (mg/l)	10	9	3.8	1.0	1.9
SS (mg/l)	20	18	7.1	0.6	2.6

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	18基	150	120	55	33
ばいじん (g/Nm ³)	18基	0.1	0.08	0.001	0.001

取手工場



所在地

〒302-8586
茨城県取手市下高井1593

■ エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (生産原単位)

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	-	-	-	1,130	1,004
燃料 (l/t)	-	-	-	108	96
総エネルギー (GJ/t)	-	-	-	15	13
用水 (m ³ /t)	-	-	-	13	11
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	-	-	-	797	713

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	-	-	-	90	360
リサイクル率 (%)	-	-	-	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.1～8.9	5.1～8.9	7.5	5.8	6.6
BOD (mg/l)	600	600	600.0	41.0	302.0
SS (mg/l)	600	600	95.0	12.0	52.0



所在地
〒987-2195
宮城県栗原市高清水来光
沢20

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力（kWh/t）	1,045	1,024	914	926	931
燃料（l/t）	205	220	224	229	227
総エネルギー（GJ/t）	18	18	17	18	18
用水（m ³ /t）	36	35	36	37	38
CO ₂ （kg-CO ₂ /t）	1,118	1,141	1,090	1,147	1,141

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量（t）	4,247	4,247	3,842	3,819	3,966
リサイクル率（%）	100.0	100.0	99.9	99.9	99.9

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.2	7.7	7.9
BOD（mg/l）	160	120	9.3	2.3	3.9
SS（mg/l）	200	100	8.0	1.0	4.0

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SO _x （Nm ³ /h）	A（5基）	0.98	0.5	0.042	0.028
	B（1基）	8.31	0.5	0.120	0.097
NO _x （ppm）	A（5基）	180	150	105	88
	B（1基）	180	150	72	63
ばいじん（g/Nm ³ ）	A（5基）	0.3	0.1	0.029	0.010
	B（1基）	0.3	0.1	0.009	0.008

伊藤ハムデリー株式会社 小樽工場



所在地
〒061-3271
北海道小樽市銭函5-61-3

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	1,303	1,187	1,163	927	1,010
燃料 (l/t)	176	169	167	177	180
総エネルギー (GJ/t)	20	18	18	16	17
用水 (m ³ /t)	25	21	21	22	23
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,193	1,112	1,093	1,111	1,097

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	296	328	327	275	310
リサイクル率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	6.5~8.5	7.8	7.2	7.6
BOD (mg/l)	300	150	220.0	45.0	113.2
SS (mg/l)	300	150	230.0	32.0	97.5

■ 大気関係測定データ

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx (Nm ³ /h)	3基	0.63	0.5	0.160	0.116
NOx (ppm)	3基	180	150	124	117
ばいじん (g/Nm ³)	3基	0.3	0.1	0.010	0.010

伊藤ハムデリー株式会社 北陸工場



所在地
〒932-0131
富山県小矢部市名畑5068

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	1,192	1,078	1,032	1,004	975
燃料 (l/t)	186	185	173	164	175
総エネルギー (GJ/t)	19	18	17	16	16
用水 (m ³ /t)	38	36	36	32	26
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,157	1,091	1,035	1,104	1,081

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	209	295	351	354	406
リサイクル率 (%)	98.1	98.6	98.6	99.3	98.1

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	6.0～8.0	6.0～8.0	7.5	6.9	7.4
BOD (mg/l)	50	10	10.0	0.6	5.9
SS (mg/l)	60	30	14.0	2.0	6.1

■ 大気関係測定データ

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx (Nm ³ /h)	3基	2.1	0.1	0.100	0.037
NOx (ppm)	3基	-	150	93	72
ばいじん (g/Nm ³)	3基	0.2	0.1	0.010	0.010

伊藤ハムウエスト株式会社 九州工場



所在地

〒841-0202
佐賀県三養基郡基山町長
野970-1

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	1,564	1,581	1,581	1,384	1,340
燃料 (l/t)	295	297	291	296	306
総エネルギー (GJ/t)	27	27	27	25	25
用水 (m ³ /t)	35	37	37	36	35
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,447	1,460	1,449	1,420	1,413

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	3,444	3,268	3,504	3,724	3,862
リサイクル率 (%)	100.0	99.9	99.9	99.9	99.9

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.5	7.7	7.2	7.6
BOD (mg/l)	30	25	4.3	1.5	2.7
SS (mg/l)	25	20	20.0	3.0	10.0

■ 大気関係測定データ

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	7基	150	140	31	20
ばいじん (g/Nm ³)	7基	0.1	0.006	0.001未満	0.001未満

サンキョーミート株式会社 有明ミート工場



所在地
〒899-7402
鹿児島県志布志市有明町
野井倉 6 9 6 5

■ エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (生産原単位)

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	214	209	208	210	218
燃料 (l/t)	19	17	17	15	16
総エネルギー (GJ/t)	3	3	3	3	3
用水 (m ³ /t)	15	14	13	13	14
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	171	161	154	170	172

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	6,427	7,426	8,521	5,259	5,982
リサイクル率 (%)	92.6	92.4	92.4	89.6	90.9

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.7	7.3	7.5
BOD (mg/l)	30	15	6.0	2.4	4.6
SS (mg/l)	40	15	4.0	1.0	2.4

■ 大気関係測定データ

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx (Nm ³ /h)	5 基	1.8	1	0.053	0.040
NOx (ppm)	5 基	-	-	110	71
ばいじん (g/Nm ³)	5 基	0.3	0.2	0.004	0.002

サンキョーミート株式会社 霧島ミート工場



所在地
〒886-0004
宮崎県小林市細野
2 5 1 6

■ エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (生産原単位)

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh/t)	155	130	104	101	101
燃料 (l/t)	8	6	6	6	5
総エネルギー (GJ/t)	2	2	1	1	1
用水 (m ³ /t)	2	1	1	1	1
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	106	88	70	77	75

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	1,278	2,347	3,063	3,210	107
リサイクル率 (%)	99.9	99.9	99.9	99.9	99.2

※2014年度より、豚脂、豚骨を廃棄物扱いではなく製品として出荷、計上したため、排出量が大幅に減少しています。

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～7.8	7.3	6.4	7.0
BOD (mg/l)	160	100	4.5	1.6	2.8
SS (mg/l)	200	50	4.0	0.5	2.4

■ 大気関係測定データ

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx (Nm ³ /h)	A(1基)	1.1	1	0.340	0.295
	B(2基)	1.1	1	0.280	0.213
NOx (ppm)	A(1基)	180	150	60	55
	B(2基)	180	150	80	60
ばいじん (g/Nm ³)	A(1基)	0.3	0.2	0.005	0.005
	B(2基)	0.3	0.2	0.005	0.005

アイエイチロジスティクスサービス株式会社仙台センター



所在地

〒983-0034
宮城県仙台市宮城野区 扇
町 7 - 7 - 10

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電力 (kWh)	565,388	557,997	572,982	559,906	556,118
ガソリン (l)	840	1,092	916	687	0
軽油 (l)	51,326	39,678	39,701	63,596	62,511
CO ₂ (kg-CO ₂)	450,176	416,150	419,535	504,112	497,401

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
排出量 (t)	2	2	4	3	6
リサイクル率 (%)	48	41	18	30	16

環境



環境保全活動の沿革

年月	弊社の主な取り組み内容
1965年	廃水処理設備の導入開始
1973年	都市ガス燃料ボイラーの導入開始
1991年	生産各工場に「環境管理室」を設置
1993年	生産事業本部に「環境安全担当」を設置
1994年	大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減
1998年	「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 全社的な環境活動推進組織「環境委員会」を設置 「環境委員会・生産部会」を設置
1999年	「環境基本方針」を制定 東京工場が廃棄物計量システムを初めて導入
2000年	
	
	
	
	環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始
	環境報告書を初めて発行
	ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み（現CSRの取り組み）」を開設

2001年	六甲工場がISO14001を認証取得	
	中期経営計画において環境活動3カ年計画を策定（以降、期間満了ごとに3カ年計画を策定）	
	グリーン購入基本方針制定	
	生産工場を対象に環境会計を導入	
	西宮工場で都市ガスによるコージェネシステムが稼働	
2002年	九州工場、サンキョーミート(株)有明ミート工場・霧島ミート工場がISO14001を認証取得	
	コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布	
	日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞	
	社会貢献活動理念と活動方針を策定	
2003年	「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始	
	「クリーンアップin甲子園浜」（初めての自主企画）を実施	
	こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し、本格的な森林保護活動がスタート	
2004年	アイエイチロジスティクスサービス株式会社仙台センター、伊藤ハムデイリー(株)東北工場がISO14001認証取得	
	全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状を受賞	
	平木小学校（西宮市）において環境学習「出前授業」を初めて実施	
2005年	自然保護をテーマにした「“食とeco”わくわく探検隊」を初めて実施（春・秋）	

2006年	伊藤ハムデイリー(株)小樽工場がISO14001を認証取得	
	社会貢献活動「環境学習都市にしのみやパートナーシッププログラム事業」(「食とeco」わくわく探検隊」と「クリーンアップin甲子園浜」の2つのイベント) に対し西宮市長より感謝状を受賞	
	伊藤ハムデイリー(株)北陸工場がISO14001を認証取得	
	「ハム工場を学ぼう」を初めて実施	
2008年	「環境委員会 食肉生産部会」を設置	
	食育イベント「スマイルキャラバン」を実施	
2009年	西宮工場で「太陽光発電設備」が稼働	
2010年	(株)藤栄、沖縄フレッシュパック(株)、IHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)がISO14001を認証取得	
2011年	伊藤ハムデイリー(株)東北工場を拠点としてスマイルキャラバン号による炊き出し活動を実施	
2014年	サンキョーミート(株)有明ミート工場が省エネの推進に貢献したとして「九州経済産業局長賞」を受賞	